

Offshore 6

1982

社団法人 日本外洋帆走協会発行No. 87/200円

昭和57年6月15日発行（毎月1回15日発行）昭和52年7月21日 第三種郵便物認可



関西ビックボートレース総合2位の〈トーゴ〉

瀬戸内海航海記

〈ノミⅢ〉 野村 侃

元来、小生はギンギラのオリンピックレースよりオフショアレースのほうが好きだ。艇も長期のクルージングに耐えられるよう、しっかりと造らせた。太平洋横断のトランパックスレースを目的としたからだ。数多くの識者がいく度も述べておられる通り、海は恐い、少少重くても耐航性に勝るものはない。数多くのレースにも出場してきたが、また、あちら、こちらとクルージングも行った。3年前は太平洋、一昨年は四国沿岸、と外洋が多かったので、昨年は我々関西勢の庭先である瀬戸内海をクルージングすることに決定した。折しも港では「連合艇隊」という映画が封切られていたこともあり、できれば海から、かの有名な「江田島」に上陸したいと思っていたところ、小生と同じ「関西ヨットクラブ」のメンバーで、「田崎真珠」の田崎社長が兵学校のご出身と聞き、氏の格別の御骨折りで、海上自衛隊との交渉もスムーズに運び、見学許可が下りたのが出帆3日前であった。この誌上をお借りして、田崎氏に深謝させていただきます。

長期クルージングの原則として、初めての水域は、できるだけ夜間航行を避けるべく、早朝出帆するように計画した。以下、当時の航海日誌より〈ノミⅢ世〉クルージングの記録を述べさせていただきます、読者諸君の一助となれば幸甚である。

昭和56年 8月8日(土) 晴

出帆初日のみ、クルー参集の都合と明石海峡の潮に合わせるため夜間の出帆とする。2200西宮港出帆。神戸及び六甲山に続く街の灯りが美しい。

明石海峡は本船の往来が激しいのでオールハンズと

する。明石海峡中央ブイを目標に西航する。播磨灘航路ブイNo.1あたりで夜が明ける。早朝のため漁船も多いが、本船の往来も多い。瀬戸内海は航路の狭い所が多いので、他船と潮には十分に注意しなければならぬ。風がないのでメインのみ展帆、平均7ノットから7.5ノットで機走する。朝もやと霧の中を備讃瀬戸東航路東口に進入、右舷に小豆島、左舷に四国を見ながら本日目的地である伯方島に向かう。

三ツ子島で分岐して備讃瀬戸北航路に入る。右舷に本島、左舷に中島を見ているところ、海上自衛隊の艦艇が軍艦旗もいさましく追い抜いて行く。と、突然、機関ストップ、エンジンルームからもうもうたる黒煙、機関に強いK君が調べてみると、何んと冷却水がなくなり、バイパスホースに穴が開いている(機関はヤンマー3QM)。坂出まで引き返すか、このまま進むかで討議する。このころ風が吹き出したので機関が冷えるまで帆走して伯方島を目指すことにする。艇速は3ノットに落ちる。航海初日からこんなことではと先が思いやられる。機関が冷え、冷却水を足しながら機帆走、伯方島に着いたころ、飲料水の300リットルの水をほとんど機関が飲んでしまった。

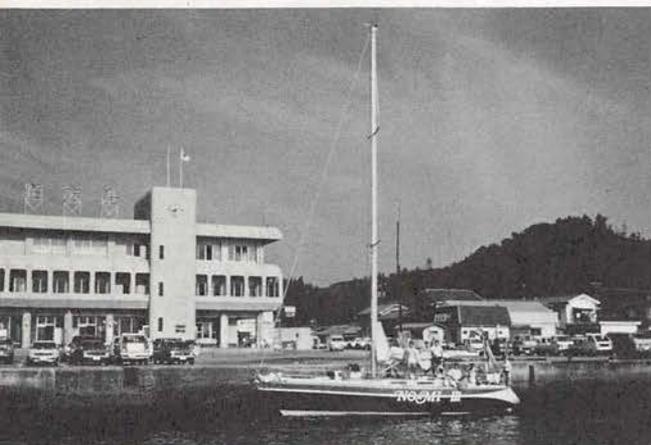
8月9日(日)

1800伯方港着。120 哩を20時間、平均艇速6ノット。伯方港は造船所もある大きな港で、冷却水のホースもみつきり無事取り換える。機関を回しても水温計は正常、やれやれ早めにやすむ。

8月10日(月) 晴

伯方島の朝市に魚を買いに行く。「宮の窪瀬戸」の見える所だ。クルージングの最大の楽しみは、何んといっても新鮮な魚介類を格安の値段で仕入れることができることだ。本日の泊地は無人島なので、ハマチ、サザエ、エビ、アサリをしこたま仕入れる。

1000伯方港を後にする。難所中の難所といわれる宮の窪瀬戸の転流時に合わせるためだ。幅約100m、最強潮流9.1ノットに達する。潮の静止時でも渦が巻いている。機走全速にてかけ抜ける。大三島と大島を結ぶ架線が低くたれ下がり、マストがつかえるのではないかとヒヤヒヤする。ヨットで橋の下や架線をくぐるのは本当にいやなものだ。大三島を右に、まもなく左に来島海峡西端の愛媛県波止浜の北「方丈角」の鼻を見る。右に大崎・下島を過ぎるころ、コース240度にとり、桂島水道南東口に向かう。白石(三ツ石)を左に、鹿島を右に、羽山島を回り込み、横島の砂浜の



伯方港に紡う〈NOMI Ⅲ〉



狭い瀬戸はワッチを厳重に!!

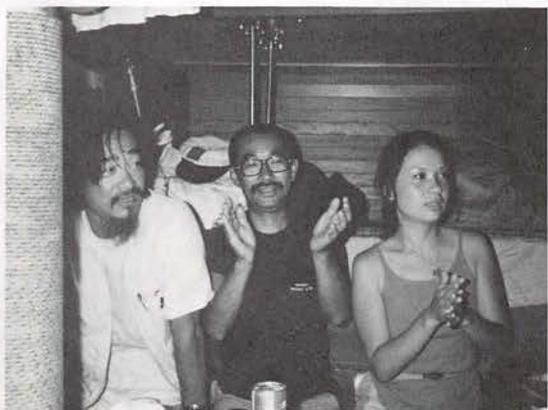
沖に投錨する。本日の航海は36湊。昼過ぎに着いたので無人島上陸、海水浴、日光浴、夜は今朝仕入れた魚介類で宴会。守錨ワッチを立てて就寝。

8月11日(火)小雨後曇

0800抜錨「柱島水道」から「諸島水道」を抜けたころ瀬戸内海名物のものすごい霧、前方がほとんど見えない。内海では嵐よりも恐ろしい。艇速を落とし、推測にて進み、片山島の大石燈台を霧の中から見つけてほっとする、本当に燈台とは有難いものだ。その時、霧が晴れる。屋代島(大島)をずっと右に見ながら西航する。

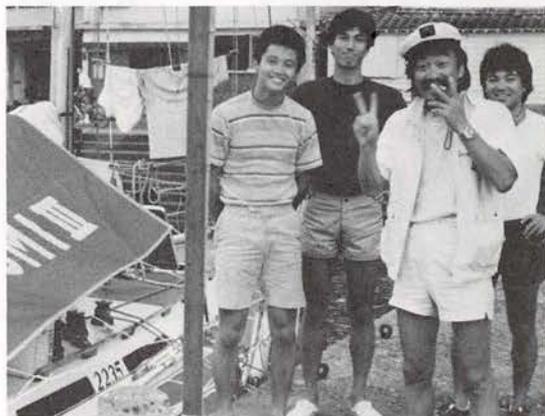
出航して初めて30ノット近い風に恵まれたのでNo. 3 ジェノア、ワンポンで帆走する。やはりヨットは帆走が良い。平群島を左に見て過ぎるころ、左舷に三つ重なった、しかも手前から、小中大と見える島(八島)が見えた。瀬戸内海は本当に面白い島がたくさるある。

天田島を右に見て回り込み、山口県祝島に入港。本日37湊。本日も早目に入港したので、早速買出し班と風呂屋さがし。クルーの一人が4kgの鯛を仕入れて来る。専任司厨長のF君が鯛を相手に弧軍奮闘しているのを見かねた地元のオバサンが、いとも簡単に料理してくれる。地方に行くほど人情は厚い。メインディッシュは鯛の刺身、皮は湯びき、潮汁、と堪能する。



連日宴会、アル中寸前

この島の鯛の餌が一風変わっている。地元の漁師さんは「コウジ」と呼んでいるが、その形といい、色つやといい、伸縮性といい、何から何まで男子の一物と似ているのだ。海綿動物の一種らしいが、正式の名前は分からない。この「コウジ」ちゃんをカゴに一杯入れて地元の漁師さんは、朝早くから夫婦で一本釣りに出かけて行く。同じ瀬戸内海でも明石鯛と違って、このあたりの鯛は大変大きい。ぜひ一度行かれることをお推めする。



山口県祝島漁港にて

8月12日(水)晴

「大島瀬戸」の潮に合わせるため、0200祝島出帆。天田島を左に見て、下荷内島を目指す。下荷内島より350度柳井方向に向けるころ、モルゲンロート、夜も白々明け、朝日の差す、右手、笠佐島の向こうに大島大橋が見える。笠佐島を回って大島瀬戸に向かう。意外に橋が低く見える。最高高潮面より30メートルもあるのだが、マストの方が高く見える。小生は恐いので引き返せと言うが、ナビゲーターのO君は絶対に大丈夫と言う。小生はブランデーを飲んでひっくり返っている間に何んか通過していた。本日は素晴らしい天気だ。前島を右に、はるか向こうに桂島が望まれる。コース30度で北上する。左手に岩国の米軍基地が見え、「ファントム」が発着を繰り返している。基地の周辺は航行禁止となっている。右に甲島、左に姫小島、更に阿多田島を過ぎると厳島(宮島)が左手前に見えてくる。意外に大きい。宮島の瀬戸より絵の島を右に見て、厳島の北岸を左へ回ると厳島神社の鳥居が見えた。

その対岸に甘日市、海楽園のヨットハーバーがある。正午過ぎ、久しぶりにヨットハーバーのボンツーンに紡をとる。クルーの休暇の都合もあるので、ここで一人下船、新たに3人が加わって総勢14人の大世帯となる。懐かしいヨットに会う。有田氏の〈カズ〉だ。以前のオーナーは小生と同じメンバーの〈トゴ〉の山田氏である。'79年のアドミの代表艇である。このハーバ

一の丘の上に会員制の素晴らしいフランス料理屋がある。名前は忘れてしまったが、かねて予約してあったので出かけたのはよいが、小生連日のアルコール過飲で、オードブルの段階でとうとうつぶれてしまい、食べたのは「アサリ」一つと、目覚めてからの「シャーベット」という体たらくで、メインディッシュにはありつけずという有様であった。飲み助のオーナー御自戒を!!



とうとうバテル 食べたのはアサリ1個とシャーベットだけ

8月13日(木)晴

いよいよ本航海の目的である江田島に行く日である。前夜、アポイントメントはとってあるのだが、何故か緊張する。現在の江田島は軍国の遺物ではない。海上自衛隊の幹部候補生学校であり、術科学校でもある。旧海軍兵学校としての懐旧だけの訪問では困る、と出帆前に海上自衛隊の幹部から言われた言葉がよみがえる。しかし、しかしだ……旭日十六条の軍艦旗を揚げ、スターンに日章旗を翻がえし江田内に向かう。この海域で何人がしごかれ何人が国難に殉じて行ったのか、そのようなことを思うと胸にこみ上げるものを禁じ得ない。すべてが人類の一つの不幸な時代の青春の廟として小生は感じる。若いクルーに聞いてみる。クルーいわく「余りにも悲惨ですな」。「Ohne mich」僕等はごめんだ……こんな思いで江田島を後にする。

海楽園ヨットハーバーを出帆したのが0830、江田島発1210、本日のうちに大三島まで行かねばならぬ。

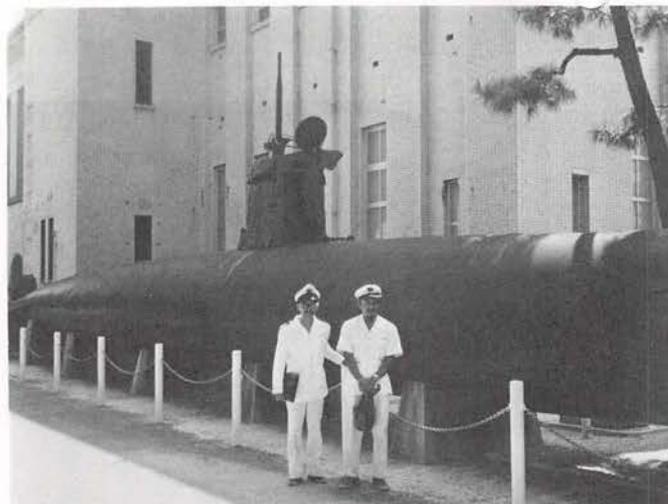
大須の瀬戸を越えて南下する。呉港が左舷に見えるころ、音戸瀬戸の入口に至る。最小可航幅60メートル、非常に狭いので音戸大橋は大島瀬戸よりも高く見える。最高高潮面より23メートル、ここの潮流は面白く、二相性である。(下図参照)



戦艦大和主砲弾の前で記念撮影

最初の中休み(中ゆるみ)のつれ潮で通過する。例によって、小生狭い所が嫌いで、アルコールで気を紛らわそうとする。しかし、昨夜のフランス料理屋でバテてしまったので、クルー達が小生からアルコール飲料を取り上げようとする。小生はいやしく飲もうとする。そうこうもめているうち、時価“ウン万円”もするサングラスが音戸瀬戸に消えてしまった。オーナー諸兄!! くれぐれもアルコールック・ビバレージには用心して下さいね。

この瀬戸は「平清盛」が切り開いたという伝説が残っている。それかあらぬか、清盛塚が南口にある。音戸の瀬戸より東へ、猫瀬戸に向かう。猫瀬戸より明石瀬戸を航行し、大三島港に向かう。右手に下蒲刈島、上蒲刈島、豊島、大崎下島、岡村島、等が連なっている。このコースはちょうど、往路、安芸灘に向かった北側に当たる。小さなフェリーが多く航行する所だ。大横島を左手に入港する。例によって生きのよいハマチ、サザエに舌鼓を打つ。当夜は花火大会、クルーの半分はボンツーンに野営する。



江田島資料館横の特攻兵器「海竜」の前で右側筆者、左側は副長の古川君

8月14日(金)晴

0400, モルゲンロートに出帆。今日中に兵庫県の家島群島まで航行しなければならないからだ。大三島港を出て右へ, 北から東へ, 三原瀬戸へ向かう。この瀬戸も狭く, しかも浅瀬もある。大三島の北側, 例の有名な大久野島を左舷に見て東北東へ転進。高根島を右に見て北へ転進。三原市の手前でまた東へ転進。細島を右に見るころ, その先に何んとも! 橋がかかっているではないか……。チャートには載っていない。あわてて水路誌を見るが記載されていない。おかしいと思い水路誌の補追を見ると, 因島大橋工事中! と……。未だ水面からの高さが書いてない。しかし高そうだ。何回も推し測りながら何とか通過できた。瀬戸内海クルージングには最新の小縮尺のチャートと水路誌及び補追は絶対に不可欠であることを痛感した次第である。

正面に百貫島が見える。備後灘に入る。往路のコース, 面白くも何んともない。風は相変わらずのベタ風で, 単調な機関音のみだ。家島の宮港1800無事入港。ここにクルーの親類があるので立ち寄ることにしたのだ。ちょうどお盆と重なったため, 300トン余りの内航船がギッシリと港内を埋めている。まあ, これだけの船がいるものだと感心する。クルーの大半は, 何日ぶりかで「タタミ」の上に寝かせていただく。島の盆唄を聞きながら就寝する。

8月15日(土)快晴

0800出帆。いよいよクルージングの最後の日なので本日は全員「泳ごう」ということになり, 家島の地元の人に泊地を聞くと, 同じ家島の南側に西島があり, 水もきれいだということで, 南岸の砂浜近くに投錨する。時折モーターボートで2~3人が泳ぎに来るが, どこかの「イモの子」を洗うような海岸と違って全く別世界である。皓々たる満月を美でながらフォアデッキで最後の夜を楽しむ。

8月16日(日)晴

0800出帆。ホームポートに帰る日がやって来た。機走で7.5~8ノット, クルーは疲れたのか, ワッチ以外全員スヤスヤ。

明石海峡から大阪湾に入ると, 再びコココーラの海に戻る。何んとかハワイ海域のような海に戻らないものだろうか。しかし8泊9日, 外洋とはまた違った経験をさせていただいた。白砂青松こそ少なくなったとはいえ, 流石国立公園である。一週間前後の休暇がとれるヨットマンには, ぜひともおすすめしたい夏のクルージングであった。全航程約450浬。

まとめ: 小生の今回のクルージングで感じたこと

1. 夏の瀬戸内海は, まずベタ風が多いので機関のメンテナンスをしっかりとしておくこと。
2. 当たり前の話だが, 特に工事が多いので, 最新のチャート, 水路誌は備えるべきだ。
3. 漁師さんより過分の魚介類をいただくことが多いので, 氷, アイスボックスは多いほうがよい。



最後の泊地: 家島群島西島投錨中

因みに今回のクルージングで小生達が消化した飲料は, キャンビール500本! ウイスキー, ブランデー併せて20本, ジュース類200本であった。まさに名は態を表わす(ノミ号)とは, よくいったものだ。

では諸兄, どこかの海でお会いできる日を楽しみにしております。

ボン, ボヤージュ

お知らせ

海技免状が
更新制になる!

運輸省船員局, 船舶職員課

今回の船舶職員法の改正により, 海技免状は, 有効期間が5年の更新制になります。

これは, 今後新しく海技免状を取得する方だけでなく, 従来から海技免状を所持している方にも適用されます。こうした更新制の導入に伴い, 従来の海技免状はすべて, 法施行後5年以内(四級小型船舶操縦士の海技免状は10年以内)に引き換えて頂くこととなります。

なお, 海技免状の引き換えに当たっては, 事務処理上の観点から逐次引き換えを行っていく必要があり, その具体的引き換えの期間及び方法については, 現在検討中です。なお, 詳細は次号に掲載します。

関西ビッグボートレース 西宮レガッタ

松岡 敏

第1レース 3月20日(土)2100スタート

NE5~6m/sの風をクォーターリーチに受けてフリーのスタートである。コースは西宮沖から泉州沖のブイを回り、洲本沖のブイから西宮に帰る時計回りである。フリーのスタートなのでライン付近での混乱が少々あったようであるが、リコール艇もなく、各艇スピナーカーを上げて夜の闇に消えていった。

その後、風は力を増し、夜半には雨も降りだした中を全艇一団となって、泉州沖のサイドマークから洲本沖のブイまで快調に走ったようである。

レースの山は洲本沖のブイを回ってから西宮までの上りのコースにあったようである。

大方の艇はスターボード・タックのクロスで明石海峡に向かったが、数艇はポートタックのクロスで上っていった。〈コテルテル〉はスピントラブルでブイを回ることが出来ず、大きく下に落ちていったが、ブイ回航後ポートタックのレグで一発勝負をかけたようである。

その後、風は次第に東に振れ、スターボードで走った艇団に有利になったようで、〈トーゴ〉はノータックで芦屋沖まで上ったそうである。しかし、ポートで走った中では〈コテルテル〉が風の振れをよく読んだのか、トップでフィニッシュした。続いて〈トーゴ〉、〈くまの〉、〈ノミ〉と2トンがフィニッシュ、次に〈サマーボーイ〉1トンがフィニッシュし、修正で1位となる。〈カズ〉は大阪湾でのナイト・レースが初めてとあって、自艇の位置の確認が十分でなく、不本意の成績であった。

その後、風は次第に弱くなり、やがて西からの風に変わり、後続艇には不利なレースとなった。

第2レース 3月22日(月)1010スタート

風S2~3m/s

最初のスタートは、各艇力が入り過ぎたのかりコー

ル艇が多く、確認できない艇もあったので、ゼネラルリコールとなる。15分後のスタートでは〈チサト〉と〈サマーボーイ〉がリミットマークの外側に押し出され、回りなおすという一幕もあった。

第1マークまでは各艇風道を拾いながらタックを繰り返している。風に斑があって、巧く拾った艇と、そうでない艇の差が出てくる。〈くまのII〉は途中〈コテルテル〉の前をクロスしたと大喜びである。

第1マーク回航は、〈トーゴ〉、〈ノミ〉、少し遅れて〈コテルテル〉、それから〈シンドバッド〉、〈カズ〉、〈サマーボーイ〉の順となったが、土砂運搬船に前を横切られてスピンを上げたままウロウロする艇もあった。〈くまのII〉は別の運搬船と仲良くポートタックで走り過ぎてマーク回航がラストになってしまった。

フィニッシュは〈トーゴ〉がトップ、大分遅れて〈ノミ〉、〈コテルテル〉の順でフィニッシュラインに近づいてきたが、デッドランからのジャイピングフィニッシュになるコースなので、どちらが先にジャイブをするかを見守るうちに、〈コテルテル〉の方が先にジャイブをしてフィニッシュラインに向かう。これを見て〈ノミ〉があわててジャイブしたため、トラブルを起こし、ライン直前でモタモタしている間に〈コテルテル〉が劇的なフィニッシュをし、つづいて〈ノミ〉の順となり、野村大人のくやしがる顔が見えるようである。

その後、タイムリミットも近づき、〈シンドバッド〉が3分前、〈サマーボーイ〉は2分前、と滑り込みのフィニッシュで、そのあとの7艇は遂にDNFとなった。

第3レース 3月22日(月)1410スタート

午後からのレースも第2レースと同様か、少々強くなったかなと思う程度の風の中をスタートして、第1マーク近くまでは、各艇タックを繰り返しながら順調に走ったが、トップ艇がマークに近づくころから風が落ち始め、潮も引潮となり、〈コテルテル〉がトップでマークを回り、大分遅れて〈トーゴ〉が回ったところからほとんど無風に近くなり、〈ノミ〉、〈サマーボーイ〉、〈シンドバッド〉の3艇は、第1マークに一番近い位置から一生懸命離れていく有様で、〈コテルテル〉と〈トーゴ〉は潮に乗ってドンドン第2マークに向かってゆき、後続艇との差は開くばかりである。

その後も風はあまり吹きそうにないので、コミッティーボートは、第2マークを回った位置でコース短縮をするべく、フィニッシュラインを設定して待ってい

第1レース後の西宮ハーバー



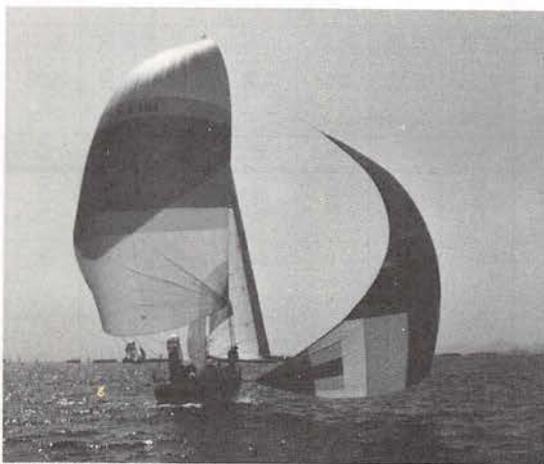
た。しかし、トップの〈コテルテル〉と次の〈トーゴ〉以外は見えてこないのので、これでは全艇DNFになると思っていた矢先、タイムリミット10分前に〈コテルテル〉が第2マークを回り、フィニッシュラインに向かってきた。ちょうどその時、一吹き風の風が〈コテルテル〉の帆を傾けて、タイムリミットぎりぎりの5分前にフィニッシュしてしまった。

それより前、〈シンドバッド〉と〈サマーボーイ〉は、リタイヤーしてライン付近に機走で近づいてきており、これを眺めて溜息をつく。これと対照的に〈コテルテル〉はフィニッシュと同時に大歓声上がる。直ちにエンジンをかけて〈トーゴ〉を冷やかすべく、すっ飛んでゆき、タイムアウトと同時に〈トーゴ〉を野次り倒す。山田先生のガックリした顔が見えるようだ。結局〈コテルテル〉一艇のみフィニッシュで、勝負が見えてしまった感がある。

第4レース 3月28日(日)1110スタート NE~ENE2~3m/s

第1マークをウエザーマークとするため、第3マークとの間にスタートラインが設定される。各艇スターボード・タックでスタートしたが、一艇のみリコール。ところがこのリコール艇〈カズ〉は、一向にスタートラインに復帰しようとせずにそのままコースを走ってしまった。

スタート後は各艇スターボードとポートに分かれて上マークに向かっていったが、〈コテルテル〉のみはスタートラインを流しており、ゼネラルリコールと勘違いしたようである。ようやくラストでスタートした〈コテルテル〉は、少し走ったかと思うとセールを降ろしてしまっけて浮いている。近づいて見ると、どうやらステアリングのトラブルで応急ティラーをセットしているようである。このため20分遅れでレースに復帰したが、このままの順位では〈トーゴ〉が総合優勝になるが……と思っているうちに、ウエザーマークを回って第2マークに近づくまでに追い付いたのはさすがである。



総合優勝艇〈コテルテル〉



第2レーススタート

第1マークから第2マークへのレグは、クォーター・リーチのスピンランとなったが、途中風がNEからWに急変し、各艇ジャイブに大わらわであった。その後風は前方より落ちてきたので、トップ艇が第2マークに近づいた頃には後続艇が追い付いて、全艇ダンゴになってしまった。マーク回航はトップからラストの〈コテルテル〉までスピンランで縦一列に並んで通過した中で、〈シンドバッド〉だけ回航前からスピンを降ろし、ゼノアで走っており、回航後風が強くなって各艇ブローチング気味となり、スピンを降ろしている間を一早くクロスコースを走り、良い位置に出た。その後各艇ゼノアを上げ、クロスコースをタックを繰り返しながら上っていった。

フィニッシュは〈トーゴ〉、〈コテルテル〉のデッドヒートとなり、両艇ともスピんにシューターと満艦飾でフィニッシュラインに近づいてくる。わずかに〈トーゴ〉が早くラインを切り、30秒遅れで〈コテルテル〉となる。あとは数分おきに〈ノミ〉、〈シンドバッド〉、〈くまの〉、〈カサ7〉、〈サマーボーイ〉とスピンランでフィニッシュする。

総合では、第3レースの一艇のみフィニッシュの〈コテルテル〉が一位となり、〈トーゴ〉は2位にあまんじた。〈サマーボーイ〉は、第1レースの走りからすれば優勝候補の本命と見られていたが、第2レース以後の走りはもう一つで3位となった。〈カズ〉(旧〈トーゴV〉)は、艇のポテンシャルからいけば〈トーゴ〉、〈コテルテル〉に張り合う力を持っていないが、それを引き出せずに終わったようである。〈シンドバッド〉は第1レースの不振がひびき、中位にあまんじた。〈ノミ〉は第1レース4着・6位、第2レース3着・3位と、久々によく走り、野村大人、大喜びで第2レース後、祝杯をあげ過ぎたのか、第3レースは酔っ払い運転だとのうわさがでるほどで、第3レースのスタートなどは、ラストからのんびりスタートするほどであった。

全般的に見て、風の強さがもう一つで、特に第2、第3レースの風がもう少し吹いて、全艇フィニッシュできたら面白いレース展開になったのではないと思う。

久しぶりのビッグボートレースであったが、やはり〈コテルテル〉、〈トーゴ〉の強さが目立ち、これに続く艇の出現を待つ感があった。

関西ビッグボートシリーズ・西宮レガッタ成績表

セーラー No.	艇名	TCF	第1レース 21:00~21:15:00				第2レース 21:25~21:40:25				第3レース 21:45~22:00:10				第4レース 22:10~22:25:10				総合 得点 合計		
			着順	所要時間 修正時間	修正 順位	得点 計	着順	所要時間 修正時間	修正 順位	得点 計	着順	所要時間 修正時間	修正 順位	得点 計	着順	所要時間 修正時間	修正 順位	得点 計			
2301	コナルテル 2	.8212	9:35:19 7:52:27	③	22	2	2:45:10 2:15:38	②	12	34	①	2:53:23 2:22:22	①	13.25	47.25	2	2:34:11 2:06:37	4	10	57.25	①
2333	トーゴⅥ	.8114	9:37:06 7:48:12	②	24	①	2:29:14 2:01:05	①	13.25	37.25	-	DNE	-	1	38.25	①	2:33:40 2:04:41	①	13.25	51.50	②
2021	熊野Ⅲ	.8168	9:43:54 7:56:55	4	20	-	DNF	-	1	21	-	DNF	-	1	22	5	2:42:30 2:12:44	12	2	24	7
2235	ノミⅢ	.8266	9:45:55 8:04:15	6	16	3	2:45:29 2:16:07	③	11	27	-	DNF	-	1	28	3	2:36:55 2:09:42	10	4	32	5
3000	サマーボーイ	.7709	10:04:04 7:45:40	①	26.5	6	2:58:00 2:17:13	4	10	36.5	-	DNF	-	1	37.5	7	2:45:40 2:07:43	7	7	44.5	③
2388	カズ	.8310	10:18:27 8:33:55	7	14	4	2:49:37 2:20:26	6	8	22	-	DNF	-	1	23	-	DNF	-	1	24	8
2840	カザ7	.7660	10:31:04 8:03:23	5	18	-	DNF	-	1	19	-	DNF	-	1	20	6	2:43:03 2:04:54	②	12	32	4
2900	シンドバッド	.7975	10:46:45 8:35:46	8	12	5	2:56:47 2:20:21	5	9	21	-	DNF	-	1	22	4	2:40:46 2:08:13	8	6	28	6
2887	シュウウザー	.7560	11:44:22 8:52:25	10	8	-	DNF	-	1	9	-	DNF	-	1	10	11	2:48:05 2:07:04	5	9	19	10
2800	サキⅢ	.7590	11:44:57 8:54:56	11	6	-	DNF	-	1	7	-	DNF	-	1	8	8	2:47:37 2:07:13	6	8	16	11
2535	チサト	.7519	11:47:51 8:52:18	9	10	-	DNF	-	1	11	-	DNF	-	1	12	9	2:47:40 2:06:04	③	11	23	9
2211	カリーノ	.7709	11:48:09 9:05:50	12	4	-	DNF	-	1	5	-	DNF	-	1	6	12	2:50:17 2:11:16	11	3	9	12
2228	銀河	.7709	12:26:15 9:35:12	13	2	-	DNF	-	1	3	-	DNF	-	1	4	10	2:47:50 2:09:23	9	5	9	13

オレンジカップレース 優勝の記

オーナー代表 小田 憲

我々〈ストームベトレル〉グループのオレンジカップ通いも三度目になります。そして、やっと三度目の正直で優勝することができました。特に今年のようにレベルの高い、強敵の多い中で勝てたことは、本当にうれしいことです。

これまでの成績は、第6回が5位、第7回が13位と落ち込み、その時点で、来年こそはなんとか勝とうと新艇の計画を始めました。前艇、ホランド33のときよりの付き合いの貝道氏に相談し、絶対に勝てる艇と、絶対に勝てるセールは何か、と聞いたところ、横山一郎氏のデザインと、ホライゾン+貝道セールの組み合わせであるということになった。予算の関係からハーフトンサイズに決めて動き出したのですが、建造までに時間がかかり、第二の〈ストームベトレル〉が進水したのは今年の2月でした。しかしこの時間のおかげでデザイナー、造船所との話し合いをする機会が増え、十分に理解し合ったあと建造に取りかかり、満足いく仕上がりの艇を作ることが出来ました。

横山氏からこのレースのために数多くのデータをいただき、我々なりに作戦を立てることが出来ました。その中にはクルーのフォーメーションの図なども大きく役に立ちました。

こう書いてくると、いかにもストリップアウトされた完全レーサーみたいに聞こえますが、実はしっかりとしたアコモデーションを持ったレーサークルーザーなのです。瀬戸内海用にトルリグと強い潮流と広い行動範囲に対応するために、エンジンは2 GM15psを積みました。ツボキヨットのワークマンシップも良く美しい艇を進水させることが出来ました。

さて、今回のメンバーを紹介します。

弘重憲二：オーナー、36歳、牛乳販売業自営。一世よりのメンバーでもとプロダイバー。潮流、海底の地形の読みが鋭く、友ヶ島水道などではなくてはならない人。職業柄朝早く起きるのが玉にきず。ナビゲーター
堀江一正：オーナー、32歳、UCC コーヒー勤務。一世よりのメンバー。彼のおかげで我が艇ではいつも本物のコーヒーをたっぷり飲むことが出来る。仕事一筋の男で休みがとれないのが残念なところ。フォアデッキ
秋本博幸：オーナー、26歳、司法書士事務所勤務。今回からオーナーになったものとクルー。オーナーになったのに前と少しも変わらないとボヤいている。最軽量のメンバー47kg。トリマー

小田憲：オーナー、31歳、紙卸業勤務。力が強いだけが取りえ。このためランナー、強風時のスピシート担当。一世よりのすべてのレース、回航に参加。

貝道盛孝：39歳、言わずと知れた貝道セール社長。貝道氏とオレンジカップを走るのはこれで二度目。貝道氏も今回は優勝をねらっており、すさまじい気迫がただよっていた。ひとたびティラーをにぎると決してはなさない名ヘルムスマン。今回の優勝も貝道氏と彼のセール、ホライゾンと貝道セールのおかげです。

以上5人のメンバーでレースに臨んだ。

第1レース・ショートオフショア

沖側よりスタート。潮流が早く、岸寄りを行った艇の中には定置網の中に入ってしまった艇が数ハイいた。友ヶ島を越へ、ラムラインを走って沼島にとりついたので、この間いつもの弱風で神経をすりへらす走りだった。複雑な潮流と風のふれで三つぐらいいに分かれた艇団が、一進、一退を繰り返して、沖寄りからアプローチした。

先頭集団のすぐ後より沼島にとりつき、風のふれをよくつかんでスリークォーターの中に入り込み、トップグループで沼島を回航。少し強いリーチングの風が吹き始め、ハイスピードで友ヶ島へ。フィニッシュまではやや強風のランニング11Ktをマークサーフィングのたびにスリークォーターにせまり、着順7位、修正1位。得点が1.5倍なので次のレースが随分楽になった。

第2レース・オリンピックコース

二度のゼネリコの後、サイドマークの手前でノーレース。スベリが悪く、悪い位置にいたのでノーレースで助かった。後で聞いたのだが、我々の艇はリコールだったとのこと。ツイていました。

第3レース・第1回オレンジフェスティバルレース・オリンピックコース

強風のレースとなった。ワンポイントメイン+No.2ジブ。徐々に風が弱まり、セール交換が忙しく練習不足をさらけ出す。着順こそハーフトンでトップだったが、〈ウイザード〉に修正で負ける。8着5位。守りのレースになってしまい、ミスをたくさんしてしまった。貝道氏も胃の痛いレースだったことでしょう。

第4レース・インショア三角レース

2位に同型艇の〈ランプリングローズ〉がいる。この艇には設計の横山氏とキングセールの庄崎氏が乗っている。一番の強敵です。このレースも最後強風となり、ミスばかりしていた。しかし、なんとか守り通して11着6位。2位に得点で1.775はなして優勝。我々にとっては初めてのメジャーウインです。いままでの苦労など吹きとんで、ビールがうまかった。レースを終えて我々のチームの弱点が良く分かった。これからは弱点を克服して、パワーアップを図り、次のレースを目指します。

我々〈ストームベトレル〉グループは、山口県山

口市の長浜漁港をホームポートにしています、NORC 西内海支部周南フリートに所属しています。

最後に毎年このような楽しくレベルの高い充実したレースを運営されているサントピアヨットクラブ、サ

ントピアマリーナ、NORC 内海支部の方々に感謝致します。

第8回 オレンジカップレース成績表

5月1日~5月3日

セー ル No	艇名	TYPE	TCF	第1レース				第3レース				第4レース				総合 順位		
				着順	E・T	順位	得点	着順	E・T	順位	得点	合計	着順	E・T	順位		得点	合計
2235	ノミⅢ	DOU 42	0.8318	DNF	—	—	1.5	2	1:30:11	11	30	31.5	1	3:35:49	25	15.6	47.1	28
2333	トーゴⅣ	HOL 41	0.8123	1	6:31:26	21	30	1	1:27:25	3	38	68.5	2	3:36:15	19	22.8	91.3	12
2469	ベンガル	YAM 36	0.7757	11	6:54:03	23	27	7	1:37:50	13	28	55	5	3:45:18	17	25.2	80.2	15
3036	マザ	YAM 36	0.7728	22	7:06:18	※36	7.5	14	1:43:15	16	25	32.5	14	3:54:10	28	0	44.5	31
2228	銀河	NAK 34	0.7709	12	6:54:09	22	28.5	DNF	—	—	1	29.5	—	—	—	0	29.5	36
2211	カリニョⅥ	TAK 34	0.7709	3	6:37:29	11	45	5	1:36:28	9	32	77	4	3:44:42	10	33.6	110.6	6
2480	カザ7	TAK 34	0.7660	2	6:36:28	※15	39	4	1:32:31	2	39	78	DNF	—	—	1.2	79.2	16
2857	白鯨	IKE 34	0.7600	6	6:42:04	10	46.5	DNF	—	—	1	47.5	9	3:50:15	18	24	71.5	20
2976	ワッキーⅡ	YAM 34	0.7590	8	6:49:59	※24	25.5	6	1:37:18	8	33	58.5	3	3:41:36	4	40.8	99.3	9
3018	エンズビル	YAM 34	0.7590	5	6:41:27	9	48	3	1:30:48	1	40.25	88.5	6	3:48:52	11	32.4	120.5	5
2276	コントレール	NAK 33	0.7580	24	7:19:12	29	18	29	2:05:21	33	8	26	15	3:54:25	22	19.2	45.2	30
2771	シードリンカー	HOL 33	0.7560	DNF	—	—	1.5	21	1:58:10	25	16	17.5	—	—	—	0	17.5	38
2887	シュナウザー	TAK 35	0.7560	15	6:58:16	20	31.5	15	1:43:38	14	27	58.5	32	4:19:52	32	7.2	65.7	21
2800	サキⅢ	HOL 34	0.7530	4	6:38:39	4	55.5	18	1:51:23	19	22	77.5	12	3:51:56	※24	16.8	94.3	11
2458	猿	YAM 33	0.7509	30	7:52:43	32	13.5	16	1:46:27	17	24	37.5	22	4:00:38	27	13.2	50.7	27
2867	トメイ	TAK 32	0.7427	18	6:58:56	15	39	27	2:03:27	29	12	51	18	3:56:31	20	21.6	72.6	18
—	ブルメリア	VADF30	0.7396	13	6:56:45	12	43.5	12	1:42:11	12	29	72.5	17	3:55:59	15	27.6	100.1	8
2860	カゲロ	TAK 30	0.7375	20	7:04:22	19	33	DNF	—	—	1	34	31	4:12:56	31	8.4	42.4	33
2818	ワイルドダック	DUB 32	0.7364	35	8:30:38	※41	0	DNF	—	—	1	1	19	3:56:53	14	28.8	29.8	35
2951	サムシング	JOY 26	0.7364	19	7:03:17	18	34.5	22	2:00:52	24	17	51	27	4:08:10	30	9.6	61.1	23
2811	プロアアップ	TAK 30	0.7333	10	6:52:33	5	54	DNF	—	—	1	55	25	4:04:40	24	16.8	71.8	19
3032	ストーミーベトレル	YOK 31	0.7333	7	6:43:11	1	60.375	8	1:38:14	5	36	96.375	11	3:50:48	6	38.4	134.775	1
3009	ランプリングローズ	YOK 31	0.7312	9	6:50:21	3	57	11	1:40:38	7	34	91	7	3:49:30	3	42	133	2
3010	レディーバード	U 31	0.7312	21	7:05:36	17	36	20	1:56:52	21	20	36	10	3:50:35	5	39.6	95.6	10
2768	チャージtoチャージ	DUB 32	0.7312	14	6:57:59	DSQ	0	25	2:02:28	26	15	15	20	3:57:50	12	31.2	46.2	29
3085	ダンシングクイーン	NAK 31	0.7301	34	8:27:38	33	12	10	1:39:32	6	35	47	16	3:54:51	9	34.8	81.8	14
2444	カレント	NOK 295	0.7301	25	7:25:03	24	25.5	19	1:56:28	20	21	46.5	13	3:52:12	7	37.2	83.7	13
2055	マーマレード	DOU 30	0.7290	27	7:28:41	26	22.5	30	2:05:46	28	13	35.5	23	4:01:56	21	20.4	55.9	25
2450	エバマウント	NIC 30	0.7280	36	8:36:43	35	9	17	1:49:01	15	26	35	24	4:04:16	23	18	53	26
2637	トップオブザモーニング	NAK 295	0.7269	23	7:06:28	14	40.5	26	2:03:16	27	14	54.5	28	4:09:05	29	10.8	65.3	22
2899	リバージュ	NAK 31	0.7258	17	6:58:45	8	49.5	13	1:42:45	10	31	80.5	21	4:00:05	13	30	110.5	7
2969	ウイザード	NAK 31	0.7248	16	6:58:27	6	52.5	9	1:38:16	4	37	89.5	8	3:49:56	2	43.2	132.7	3
2950	青波行	JOY 26	0.7215	28	7:35:53	27	21	24	2:02:10	23	18	39	34	4:41:14	34	4.8	43.8	32
2421	アンドモア	NOL 30	0.7215	32	8:11:45	31	15	31	2:08:41	31	10	25	30	4:09:36	26	14.4	39.4	34
2399	イブⅤ	DOU 30	0.7204	DNF	—	—	1.5	32	2:11:58	34	7	8.5	33	4:38:53	33	6	14.5	39
—	シロマン	Y 26C	0.6901	31	7:52:52	25	24	28	2:04:59	22	19	43	26	4:07:55	8	36	79	17
3063	ブレイクポイント	Y 21s	0.6783	29	7:36:46	13	42	33	2:15:36	30	11	53	35	5:17:19	35	3.6	56.5	24
2626	ヴンブテンブ	DUB 23	0.6687	33	8:21:17	30	16.5	34	2:21:42	32	90	25.5	36	5:25:58	36	2.4	27.9	37
2531	インファニティー	Y 21s	0.6662	26	7:25:08	2	58.5	23	2:01:09	18	23	81.5	29	4:09:16	1	44.7	126.2	4
2810	太陽	SAW 37	0.7892	DNF	—	—	1.5	DNF	—	—	1	2.5	—	—	—	0	2.5	40

第2レースはノーレース
※印はベナルティ順位

艇名	艇長	オーナー	艇名	艇長	オーナー
1位…〈ストーミーベトレル〉	小田 憲	小田 憲	6位…〈カリニョⅥ〉	古川浩二	古川浩二
2位…〈ランプリングローズ〉	片岡清一	片岡清一	7位…〈リバージュ〉	横井憲二	横井憲二
3位…〈ウイザード〉	田代 誠	日柳政俊	8位…〈ブルメリア〉	中西達郎	中西達郎
4位…〈インファニティー〉	田中良三	奥部昭一	9位…〈ロッキーⅡ〉	守石一博	守石一博
5位…〈エンズビル〉	諏訪泰久	前田一八	10位…〈レディーバード〉	林 康雄	岸 博志

〈オテントサン〉 近頃あれこれ

OTENTO-SUN事務局 松浦雄次

スタート直後です。当然ながら風上側におりましたところ、「ブームだ！」「何？ 引き込んでるやないか」……ナント、ナント我が艇の上をブームが通りすぎてきました。ブームにはワイパー機能もあるんですな。なお、〈OTENTO-SUN〉上のブームの持ち主はアノ（太陽）でした。

30過ぎたら新中年といわれるが、平均年齢37.1歳の〈オテントサン〉は、共同オーナー艇であります。クラブ会員、NORC 会員、船籍者、1級保持者、無線資格者、事務局等同一人はおりません。このような船のために企画されたレースが、第1回オレンジフェスティバルレースでした。主催者の意図を察し、その期待に応えただけですが、世の人々は申します。第1回レースに優勝したのは〈オテントサン〉だと。大きな、大きなカップ、小さい、小さいカップ、高い、高いトロフィー、きれいな、きれいなTシャツ、焼けてなかった豚肉、サントピアの皆さんアリガト。

齡(ヨワイ)一ツ重ねるごとに己のためだけの時間が取りにくくなるのがサラリーマンの仲間達(メンバー)。5月の連休、8月の休暇の取りやすい時期は、船で遊ぶには実に貴重です。特に今回は各自のスケジュール調整が難しく、いろいろ考えておりましたところ、前述のレースがあるとの由。サントピアなれば足は何とか24時間確保出来、しかもいい飲み屋(すなわち、可愛い娘がおり、料金格安、ある時払いの催足なし)は常に満員でありますように、最近のサントピアにはなかなか入れてもらえない。それがゴールデンウィークに3日も入れてもらえて8000円、その上1日はレースとかで遊んでもらえます。「コレコレ」と決め、場合によっては出なきゃいい、誠に不真面目な参加なのであります。ゴメンナサイ。

しかし世の中は甘くはありません。西宮からサントピアのほとんどが霧の中、不快極まる機走の連続で、ようやく着いたサントピア、ワッキーの脇に抱き、整理もソコソコ洲本行き、ニンニクスライス大盛りで、酒を飲むのがオンコース、食器も洗わず天国だ。

お目々が醒めればまた霧だ、風がないのも昨日から、何せ動機があればだから、DNS と決め込んで、行き着く先は酒びたり、会議の呼び出し無視したが、それじゃ何でもあんまりだ、それくらいはと役目柄、途中で眺めたカップ類、ムラムラ来るのが男の子、キャビン追いつく作戦が、昼食レストラン(キャビン)のアイデア、

他人船(ヨット)出る出る風も出る、乗りかかった船は止まらない、アアコリヤコリヤと。

残念ながら真実はこんなところで、優勝ですヨは照れくさく、翌朝早くサントピアを脱出したのであります。世間様はそれでは許してくれず、追いついてきたのがこのレポート。たった半日で3000字とは余りにも因果応報とはいえ殺生ですヨ浮田さん。発言自由な我が国ヨ多少外れても恨みません。こんな日本に誰れがしたノ(別に NORC の会長を誉めたりけなしているのではありません。悪しからず)無責任にマス埋めます。

ゴキブリならぬ新型艇がゾロゾロ出て来る西宮で、我々は必死に生きていますのであります。誠にスマートなマスト群の中で、1本だけ太短いのが目立っており、ゲストの招待時には便利です。レース参加の目的も運行の安全練度アップなのですが、毎度の結果からは負け惜しみになりますし、愛される〈オテントサン〉に終始しておる現状です。西宮ではピータソン30では勝てないのでありましょか、と申し上げるほどの練習もせずに、酒に手が出る〈オテントサン〉の近頃でした。I 世時代の完全優勝の記憶も神ならぬ我身、遠い過去のものとなってしまったところでの今回です。素直に喜んでおります。「ファミリーレースちゃうノフェスティバルや!!」残念ながら今回乗船出来なかった仲間(メンバー)への連絡でした。どなたか彼等に二者の違いを説明してやって下さい。(ただしファミリーレースでは NORC からの原稿依頼はきませんよ!!)御申し込みの量には達しておりませんが何せ短時間のこと、自分の才能棚に上げ、今日もまたまた責任転化の〈オテントサン〉の事務局でした。〔完ヤレヤレ〕

第1回 オレンジフェスティバルレース成績表

セー ル 番 号	艇 名	所要時間	TC.F	修 時 正 間	順位
2323	オテントサン	1:59:36	0.945	6781	1
2039	モーランV	1:51:20	1.020	6814	2
1798	アクエリアス	2:06:36	0.945	7178	3
2976	ワッキー	2:14:46	0.900	7277	4
—	コスモス	2:10:28	0.945	7397	5
2981	レスベランス	2:08:57	0.960	7428	6
2421	レスベランサ	2:06:22	1.000	7582	7
2553	ヒューストン	2:13:47	0.945	7586	8
1650	フォーラム	2:17:02	0.950	7811	9
2548	ブレインソレイユ	2:14:20	1.000	8060	10
—	ココ	2:31:37	0.900	8187	11
1641	トンピリビ	2:25:12	0.945	8233	12
2460	ローレル	2:22:38	0.965	8258	13
2945	デジション	2:24:29	0.960	8322	14
—	ブリマベラ	2:45:20	0.885	8779	15
2809	さざなみ	2:59:52	0.865	9335	16
—	ノアノア	3:06:52	0.900	10091	17
3014	ブ ラ	3:15:42	0.900	10568	18
—	サンライズ	—	—	DNF	
—	又 玄	—	—	DNF	

第15回 別府レース報告記

〈アンタレス〉 宮西勝秋

雨の多いゴールデンウィークにあつて、レース中は晴天に恵まれ、南下のコースでは正面に鮮やかな〈アンタレス〉を見ることができた。15km以上の強風から、ベロンコまで非常に変化に富んだ海況で、フィニッシュの奥深い別府港は、山からの吹き降ろしで、波こそ立たぬものの、風向きの振れが大きく、ブローは強く長く、最後まで緊張の続く、充実感のあるレースであった。

参加は例年より少し多めで、ハーフトン以上のAクラス17艇、1/4トン以下のBクラス4艇で、計21隻。23フィートから2トンの42フィートまでの多彩さである。

コースは始めて徳山スタートとなり、国東半島の東部をかすめて南下して別府湾に入り、別府市街地の500m沖に待機するフィニッシュポートまでの46マイルのコースである。従来的一本コースから50度折れ曲がるものとなり、それだけ変化がついたわけである。

5月3日夕刻の艇長会議では、全くのベタ風で、さ

ぞ神経をすり減らすレースとの予感がして、スタート時間も早めの2200に設定された。ただ会議の終盤、強風波浪注意報が出たと聴かされ、半信半疑のものが多かったが、どうも天気図とりをしていない艇がほとんどのようで、(かくいう小生もである)いささか頼りない。

さて、スタートの笠戸島沖では、そよと吹いたり、止んだり、東からの横風で無事スタートする。天気予報は西風というのに、変な具合だなーといぶかりながら行くうちに、1130ごろ急に西の強風が吹き始めた。海域はちょうど、さえぎるものない周防灘とあつて、波も急速に成長するが、具合良くスターボードのアビーム風で、やや前より。風はたちまち20ktに上がり、奔馬の如く走り出し、真夜中の各艇の大奮闘が展開されることになる。

2トンの(KAZU)は、巨大なスピンを瞬時に破り、我がY30Sは、ブローチングが続いて遂にスピンドウ

第15回 別府レース成績表

着順	セール番号	艇名	T.C.F	型式	順位	所要時間	修正時間
1	2388	KAZU	0.8310	PET42	1 (Aクラス1)	10 . 48 . 54	8 . 59 . 14 . 15
2	3034	ANTAREES III	0.7333	ヤマハ30S	2 (Aクラス2)	12 . 21 . 44	9 . 3 . 54 . 78
3	2492	Mr.ジャンボ	0.7301	なかよし295	3 (Aクラス3)	12 . 33 . 18	9 . 9 . 59 . 06
4	2718	Blue Mist III	0.7343	ヤマハ30S	4 (Aクラス4)	13 . 17 . 29	9 . 45 . 35 . 52
5	2059	AKI III	0.7550	ヤマハ-33	7 (Aクラス5)	13 . 30 . 37	10 . 12 . 00 . 93
6	2266	国土無双	0.7343	YOKOYAMA 30	8 (Aクラス6)	13 . 58 . 09	10 . 15 . 27 . 21
7	2164	タランテラ 3	0.6924	HOLAND 1/4	6 (Bクラス2)	14 . 37 . 48	10 . 7 . 47 . 32
8	2769	パンペール	0.7343	ニコルソン30	11 (Aクラス8)	14 . 40 . 55	10 . 46 . 51 . 43
9	2013	サテンドール	0.7550	オリオン 33	17	14 . 46 . 36	11 . 9 . 22 . 98
10	2372	NIXE (ニクセ)	0.7280	カウフマン 30	12 (Aクラス9)	14 . 53 . 0	10 . 50 . 06 . 24
11	2909	DEECHA	0.6970	YA-26C	9 (Bクラス3)	14 . 53 . 41	10 . 22 . 53 . 84
12	60	KAIMILOA III	0.7150	BLU 30	10 (Aクラス7)	14 . 58 . 35	10 . 42 . 29 . 22
13		Mme Mambow	0.7238	Y-30C	13 (Aクラス10)	15 . 5 . 15	10 . 55 . 13 . 20
14	2839	SPICA III	0.7258	ヤマハ 30C	15	15 . 14 . 32	11 . 3 . 46 . 10
15		フリーダム	0.7258	ヤマハ 30C	16	15 . 18 . 05	11 . 6 . 20 . 69
16	2719	安芸V世	0.715	ケッチ	14	15 . 20 . 43	10 . 58 . 18 . 74
17	2926	アルラーキス	0.7269	ヤマハ 30III	18	15 . 34 . 36	11 . 19 . 21 . 64
18	2532	サマンサ	0.662	NO23GT	5 (Bクラス1)	15 . 45 . 46	9 . 48 . 11 . 01
19	2622	レッドタキシード	0.7269	ヤマハ 30III	19	15 . 58 . 29	11 . 36 . 43 . 29
20		ベスカドール	0.7290	ピーターソン	20	16 . 10 . 30	11 . 41 . 29 . 67
		エスポアール	0.6819	YA 25	D.N.F		
		スリースター		ヤマハ準 オープン参加			
		やしろ		コミッティー			

ン。とり込むのに必死の騒ぎがあった後、ジブハリをからめてしばらくはメインのみで走るが、それでも7~8ktでの快走である。アビームで本当に助かった思いである。

前線通過だからそのうち収まるだろうと期待するが、一向に風力は落ちなかった。が、流石02時ごろには波も風も落ちてくる。国東半島にかかったわけで、このころより国東港と大分空港の灯火が鮮やかに見えはじめる。波静かに5~6ktでしばらく走るが、周防灘の波だから、まるでスピード感が無い。空港沖まで徐々にスピードは落ち、3ktまで下がるが、対地スピードが出ないのに気づく。中潮とはいえ、かなりの逆流に阻まれている。空港沖で夜明け、同時にベタ風となり、ときどきのブリーズを拾いながら進み、「アア、またしてもいつもの風。別府湾は深いから1500のタイムリミットに入れるか……?」と、グチが出てくる。

07時頃、安岐町沖を走っていると、突然に吹き出した。別府湾奥からの吹き出しである。ぐっと腰のすわった重い風で、海面は真黒に変わり、急速に風域は広がってゆく。コースはほぼ上りいっぱい、風力はどんどん上がり、17~18ktと走って2ポイントNo.3ジブで一時は走る。少しでも前にいる艇ほど早く強風をつかみ、空港沖でゴロゴロ浮いて見えていた艇群に大差がつくことになった。

その後、風が一時落ちてフルセールに戻すが、再び強まり、陸に近づくにつけブローの息とフレが大きくなる。フィニッシュが陸地にベッタリとはりついているので、ブローにつれ大ヒールとコースダウンを繰り返すことになり、各艇タックの繰り返しで、やっとの思いでフィニッシュすることになる。ブローは25ktあったという。

(KAZU)は流石に別格で、0849にフィニッシュ。次は、空港沖からの2艇のデッドヒートにケリをつけたY30S〈ANTAREESⅢ〉が1022、続いて昨年の覇者、NAK295〈ミスタージャンボ〉が入る。次のグループが11時台の3艇と続き、1410までに1艇を除いてすべてフィニッシュ完了した。



15mの風に奮闘中のコミッティーボート



ホテルでのパーティー風景

速報

第3回クリッパー・カップヨットシリーズ ナショナルチーム決定

第3回クリッパー・カップ・ヨットシリーズのナショナルチームが次のように決定しました。

●ブルーチーム

〈雲柱〉、〈トゴVII〉、〈SUMMER BOY〉

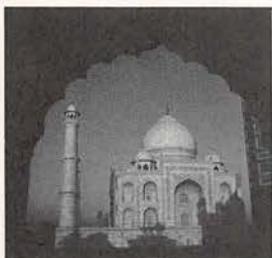
●ホワイトチーム

〈月光〉、〈コテルテル〉、〈ビッグアップル〉

●レッドチーム

〈つばくろ〉、〈サンバード〉、〈キャプテン・アルパロス〉以上3チーム9隻です。

なおこのほか、個人またはクラブチームとしてのエントリー艇は〈摩利支天〉、〈カズ〉、〈ブッシーキャッツ〉、〈とびうめ〉の以上4隻です。



車イスの人魚 “フィアーナ”が海に還る日④

インド編

石井浩一・フィアーナ

ドクターからはアグラの兄さんあてに紹介状を書いてくれ、電話で連絡を取ってくれました。私達は、こういう温かい心に触れることができました。インドに着いた時の初めの印象は、あまりよくなかったのですが、それらの悪い印象を素朴で純粋なインドの人々の心からの親切が消し去ってくれたのでした。我々がカルカッタで生存している間には、ホテルの前の路上生活者達との間にも大きな友情が芽生えたりもしたのです。最初、彼らは金を恵んでくれと迫ってくるだけでしたが、2日後に彼らがもらった小銭を山積みにして、路上でバクチを打っているのを見た瞬間、小銭を与えるのはやめにしました。

一日中炎天下で人力車を引き続け、彼らが汗を流して得る人力車夫の収入よりも、路上生活者の収入の方がはるかに上回っているとレアリーから聞いたのもそのころです。

カースト制度は廃止になったといわれていますが、実際にはその制度は今だに生きていたのです。おまけに、そこから出てくるインド社会のヒズミを何度も見せつけられました。彼らは我々から小銭を得られないと分かると、今度は生後1年ぐらいの子供を抱いてきて、1,000ルピー（約4,000円）で買ってくれと迫るのでした。それが駄目だと2歳の子、3歳の子と、次々に外出するたびに「買ってくれ」と迫り、挙げ句の果てには、その子供達に「ママ、ママ」と我々の前でいわせるのでした。金を多く得るために小さいころに両足を切断してしまう親達もいるという事とを聞いていただけに、出来れば引き取りたいが、しかしそれは無理な相談でした。そのうちに、ホテルから出される朝食を彼らの所でもとにとり、朝のひとときを一緒に

今でも牛やラクダが交通機関に



過ごすようになると、それからは彼らの対応の仕方も変わってきました。そして友人として彼らから迎え入れられたのでした。カルカッタの最後の夜は、レアリーの家族から夕食の招待をうけ、楽しいひとときを過ごすことができました。この時驚かされたのは、テレビの番組の放映時に集まった人の数です。40~50人はいたでしょうか、家の中はもとより、中にはベランダや窓の外から身を乗り出して見る人もいました。私が子供のころに、唯一テレビの置いてある近所の食堂にかけつけていたのを思い出し、なつかしさがこみあげてきました。白黒のテレビの値段は恐ろしく高く、中産階級層にいるレアリーの、数カ月の給料のすべてを飲み込んでしまうほど、彼らにとっては高根の花なのです。

カルカッタを発つ前々日には、空港で消えたバックパックも無事に返ってきた、といたいところですが、中味の大半は消えていました。新たにマーケットで買いそろえたものをつめこんだバックパックの一つを車イスにセットし、大きなバックパックを背中に、そしてフィアーナのヒザの上に2個の手荷物を置いた我々が、カルカッタの街をあとにしたのは1976年10月19日のことでした。再びフィアーナと私の珍道中が始まりました。

飛行機でベナレスへ飛んだのですが、その飛行機はプロペラの双発機で、型も古く、着くまで不安の連続でしたが、上空から見たガンジス川は「さすが！」と思わせるほど眼下に雄大な姿を映し出していました。ベナレスの街はずれにある小さな安宿に落ち着いたのですが、空港からそのホテルまでの約20キロにおよぶ道の両サイドに展開された風景は、この世のものとは思えないほど美しいものでした。そこには田園風景が続いていたのです。道には人はまばらで車もほとんど通らず、代わりにラクダや牛が交通機関になっていました。また、農耕も数世紀前に行われているようなものでした。すべての風景が絵になるといっても過言ではありません。フィアーナも聖書の中に出てくるような風景だと感激していました。それらはすべて平和そのものでした。デコボコ道を苦勞しながら歩いていると、その中に我々もいるんだという実感がこみあげてきます。途中すれちがう人達や、畑で働いている人、そして牛も、何世紀か昔の画匠によって描かれた画面の中から飛び出してきたかのような錯覚に陥りました。こうい

う汚れなき自然の景観は、日本ではなかなかお目にかかれませんが、また、機械文明に毒され、それに絶望を感じた欧米人の若者達が、インドに安らぎを求めて集まってくるというのもよく分かります。

ベナレスでは街中を歩き回り、夜はホテルでのんびり過ごしました。ある時は、シタールというインド独特の楽器を、プロが我々の目の前で演奏してくれた日もありました。彼の演奏は抜群で、我々を陶酔の世界へ引っぱり込んでゆきます。彼は、インドでも5本の指に入ると噂されるほどのシタール奏者ですが、あまり有名になり過ぎて、あるパーティーの席で食べ物に毒を盛られ、それ以来体中の毛が抜けてしまい、大勢の人前には顔をさきなくなったそうです。彼と巡り会えたのはとても幸運でした。それは今まで聞いたインド音楽の中では最高のものだったからです。

次の日も前日の感激の余韻を体に残して、いよいよ聖なる川ガンジス河に向かいました。夜明けまでには到着しておきたかったので、逆算して、その2時間前にホテルを出ました。見知らぬ土地で、しかも静まりかえった夜道を歩くのは気味の悪い思いでしたが、ガンジス河へ近づくにつれ、人の数は想像を絶する程に膨れ上がり、その中には一見してヨガの行者とわかるような人達も多く見かけるようになりました。

ヒンズー教の聖地ベナレスのガンジス河はヒマラヤに座する全知全能の神シヴァの頭髪からしたり落ちる水が集まって聖なるガンジス河になると信じられ、河の水で沐浴し、または遺骨や遺灰を河に投げると再びこの世に生まれて幸福な生活を送ることが出来ると信じられています。そのため、インド全土から信者が集まってきて、河岸をうめつくしています。おまけに我々のようなツーリストの群や、そこに居付いているヒッピー達が入り乱れて相当な賑わいを見せています。

ガートという、河の中に降りていくための石段をフィアーナを車イスでうまくサポートさせながら、一段一段降りていきます。80段くらい迄は数えていましたが、途中で数えるのはやめました。とにかくこの階段を往復したことで、ピラミッドの頂上迄フィアーナを連れて上られるというくらいの自信がついてしまいました。下まで降りて観光用に用意されている小舟に移るのですが、これには苦労しました。車イスごと移すのはいいが、少しの体重移動でも小舟は傾むいてしまいます。そこで30分程かかってしまい、離岸する頃には西の空が明るくなり始めました。そのうちにフィアーナが「河の上に浮いているいくつもの物体が急に沈むわ」と言いだしました。

火葬や水葬された死体も随分と浮いて流れているのですがそう急には沈まないはずですが。……確かに黒い流水のような物が急に姿を消します。「?」。舟頭に聞くと「それはワニだ」と言います。ワニがうようよしている中で彼らは沐浴するのだろうか? 彼らは、ワニは神様からのお使いのものだから我々を襲ったりはし



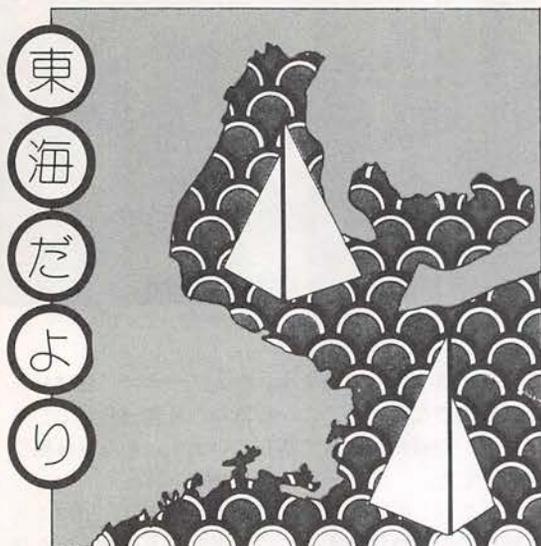
沐浴をする人々

ない、と信じ込んでいます。フィアーナは「私はヒンズー教徒でないからここから落ちたら食べられてしまう」と、舟頭に向かって話しています。かなり真険な表情でした。

そうこうしているうちに日の出が始まり、川岸から朝焼けで赤茶色に染まっている土手の上を見上げた途端、あっけにとられてしまいました。そこは太陽を背に向けた人達のお尻のオンパレードだったのです。土手に沿って一列に並び、なんと大きい方の用を足している最中でした。その落下したものはおむすびコロコロよろしく、ころげ落ちて川の中に吸い込まれていきます。すぐ横には何千人という人達が川の中で沐浴し、歯みがきやうがいをしているのです。更に驚いたことには彼らの見事なくらい白く輝いている歯が、歯をみがきうがいの後、その歯は茶色になっていました。それ程に変色した汚れた河の中に、平気で入っていくのを複雑な心境で眺めていました。彼らにとっては清く美しい聖なる河なのでしょうが……。信者とそうでない者の違いでしょうか。それでも3キロ四方にわたってひろがる寺院や巡礼宿の建物が朝焼けの河面に実に美しく写し出され、河の中に群がる信者達と溶けあっていました。

さすがにガンジス河の水の味見をする気にはなれませんが、帰りには壺につめた河の水を出店で買って日本まで持ち帰ったのです。2時間程、川下りを楽しんだ後、再び長く続く階段を汗だくになりながら駆け上がり、その周囲にある旧市街の細い路地に沿ってひしめきあう色とりどりの店をひやかして回ることにしました。そこは人2人並んで歩くのがやっとの所で、そこに車イスが入り込み、更には小牛までが我が物顔で鎮座して道路をふさいでいるのでした。

大勢の混雑をまねき彼らから怒鳴られながらもあつかましくその声を半ば無視しながら歩き回ったのです。道が迷路のように入り乱れ、一時は出口がわからずに2人して慌てたりもしました。それでもそこでショッピングを楽しみ、おみやげの小物をしこたま買いこみ、同時にインド全土から集まってくる人達や現地の人達の息吹きを直接肌で感じとり、彼らの熱気で2人共全身汗だくになりながらもしごく満悦しながらこの旧市街をあとにしました。(つづく)



野島レース及び オリンピックレース報告

(野島レース：3月21日
オリンピックレース：3月22日)

帆走委員 青山 真

オープニングレースということで、野島レースでは17艇、オリンピックレースでは13艇参加と大変有意義なレースでした。

オリンピックレースは今回が初めての試みで、幡豆フリートが担当でしたが、パーティーには70数名が集い、大変楽しいひとときであったと思います。

オリンピックレースではスタート前にスタート練習を行いました。

今後もフリートごとにこのようなレース企画を立てて、活発な活動をしていきたいと思ひます。

今年〈長良〉は大鷲進！

クルー 東 威 志

〈長良〉としては初めての総合優勝を飾ることが出来、オーナーともども本当に喜んでゐる次第です。

レースを振り返るに、私たち〈長良〉は、たいしたトラブルもなく、雨の中を風下からフルメイン、ヘビーゼノアでのスタートでした。

スタート20分～30分後、風が落ち始めたのでライトゼノアにセールチェンジ、この時ジブハリヤードのスナップシャックルがはずれ、ライトゼノアが「アッ！」という間に海の中へ、いそいで拾い上げ、風上のハリ

ヤードで上げ直してセールトリムに集中、集中……。風はどんどん落ちながらふれたので、我もライトゼノアからNo.1 スピンを上げ、野島に向けプロバーコースを引く。

野島に近づくころには風が吹き出し、時々ブローチング。野島回航で〈スーパールーシー〉に風上から抜かれてしまうが、馬草までのレグで追いつく。1/2トンでは〈ノア〉、そして〈長良〉の順で回る。フィニッシュまでポートの片上り。〈ノア〉は西浦をかわせないためタック。我はイッパツでかわしてフィニッシュ。1/2トンではトップ。バンザイ！

パーティー会場で総合優勝と聞き、またバンザイ！オーナーやりました！

最後に、当レースのコミッティーを担当して載きました皆様方に御礼申し上げます。

野島レース成績表

クラス	艇名	T.C.F	着順	所要時間	修正時間	順位	
						総合	クラス
II	EPICUREAN	0.8050	4	3-53-13	3-07-44	12	3
II	美濃	0.8186	8	3-58-44	3-15-12	16	6
II	CARRERA	0.8166	2	3-45-33	3-04-38	6	2
II	NACHI Ⅷ	0.8257	3	3-49-43	3-09-40	13	4
II	VIND 7	0.8283	1	3-41-10	3-03-11	3	1
II	SELENE	0.8230	5	3-55-44	3-14-00	15	5
III	丸玉丸	0.7873	10	4-04-35	3-12-33	14	2
III	朝鳥	0.7815	6	3-58-32	3-06-24	10	1
IV	MEER V	0.7590	9	4-04-00	3-05-11	8	2
IV	MARK	0.7450	11	4-08-54	3-05-25	9	3
IV	PARAPHRENIAN VI	0.7620	7	3-58-37	3-01-49	2	1
V	SUPER LUCY	0.7215	16	4-15-17	3-04-11	5	3
V	うらなみ VI	0.7161	17	4-40-33	3-20-54	17	6
V	OCEANID EXPRESS	0.7280	14	4-11-48	3-03-18	4	2
V	TOMOERIKA V	0.7354	15	4-12-41	3-06-36	11	5
V	NOAH V	0.7354	13	4-11-36	3-05-01	7	4
V	長良	0.7269	12	4-09-26	3-01-18	1	1

オリンピックレース成績と総合順位得点

クラス	艇名	T.C.F	修正時間	総合	得点	野島レース	2レース合計得点	総合
II	VIND 7	0.8283	1 ^h 39 ^m 03 ^s	4	10	16.5*	26.5	①
II	NACHI Ⅷ	0.8257	1-35-03	②	12*	4.5	16.5	7
II	美濃	0.8186	1-49-29	11	3	1.5	4.5	13
II	CARRERA	0.8166	1-34-57	①	13	12.0	25.0	4
II	EPICUREAN	0.8050	1-37-29	③	11	6.0	17.0	6
III	丸玉丸	0.7873	1-43-45	7	7	3.0	10.0	11
III	朝鳥	0.7815	D.N.F		1	9.0	10.0	11
IV	PARAPHRENIAN VI	0.7620	1-41-34	6	8	18.0	26.0	②
IV	MEER V	0.7590	1-44-02	9	5	10.5	15.5	9
V	TOMOERIKA V	0.7354	1-44-34	10	4	7.5	11.5	10
V	OCEANID EXPRESS	0.7280	D.N.F		1	15.0	16.0	8
V	長良	0.7269	1-43-48	8	6	19.5	25.5	③
V	SUPER LUCY	0.7215	1-39-42	5	9	13.5	22.5	5

*印はファーストホーム

豊橋港開港10周年〈日本丸〉寄港記念レース

豊橋港は今年でちょうど開港10周年を迎え、帆船〈日本丸〉が寄港することになっていた。4月25日天気は快晴、〈日本丸〉の優美な姿で港はいつになく華やいだたたずまいを見せている。ここで行われた『豊橋開港10周年日本丸寄港記念レース』は参加艇45隻、参加人員245人というにぎわいであった。その中で着順3位の〈ミ

ールV〉が総合優勝を果たし、ファーストホームの〈美濃〉は総合で3位となった。クラス1/2では〈ララ10〉が、クラス1/4では〈アイビーII〉が、そして1/8クラスでは〈ラブフォーセール〉がそれぞれクラス優勝をした。このレースには、女性の参加や子供連れの家族参加もあり、終始楽しい雰囲気でのレースであった。

豊橋港開港10周年 〈日本丸〉寄港記念レース成績表

クラス	着順	艇名	艇長	所要時間	T.C.F	修正時間	総合順位	クラス順位
3/4 t 以上 クラス	①	美濃	林隆則	35' 31"	0.8177	29' 02".5	③	②
	2	朝鳥	相田庄子	37' 10"	0.7815	29' 02".7	4	③
	3	ミール V	重盛忠誠	37' 42"	0.7590	28' 36"	①	①
	4	カレラ	渡辺行彦	38' 20"	0.8212	31' 28"	12	5
	7	ナルミ V	竹内靖	39' 47"	0.7815	31' 05"	10	4
	8	セレーネ III	富浦保典	39' 57"	0.8230	32' 52"	24	7
	11	ジャスト III	花川幸一郎	42' 34"	0.7560	32' 10"	18	6
	5	ララ 10	岩瀬洋二	39' 33"	0.7290	28' 49"	②	①
	6	トモエリカ V	析浦義利	39' 45"	0.7375	29' 18"	5	②
	9	ノア V	近藤伸次	40' 27"	0.7290	29' 29"	6	③
	1/2 t ク ラ ス	10	スーパールーシー	加来純一	42' 06"	0.7215	30' 22"	8
12		オセアニッド EX	吉田貴彦	42' 35"	0.7280	31' 00"	9	5
14		パンゲア	酒部秀則	43' 40"	0.7193	31' 24"	11	6
15		長良	矢野敏邦	43' 50"	0.7269	31' 51"	16	9
16		ちぐさ	丹羽千歳	44' 27"	0.7094	31' 31"	13	7
17		パンディーナ	八木正生	44' 50"	0.7094	31' 48".2	14	8
18		うらなみ VI	市川勇	45' 46"	0.7161	32' 46"	21	10
19		トーカイ 9	沢田一彦	45' 53"	0.7204	33' 03"	25	11
20		ブーメラン	加藤	45' 27"	0.7204	33' 27"	28	12
23		ホーネット II	高橋正弘	47' 57"	0.7204	34' 32"	30	13
1/4 t ク ラ ス		14	アイビー II	中野修	42' 47"	0.6982	29' 52"	7
	21	ティティス	神田晴史	46' 34"	0.6993	32' 33"	19	②
	23	F・エンベレス	磯部賢一	47' 57"	0.6843	32' 48"	23	④
	25	百恵	井上佳計	48' 13"	0.6783	32' 42"	20	③
	30	アメンボー	中根博行	50' 41"	0.6901	34' 58"	31	⑤
	31	ユキ	玉井定男	51' 07"	0.6901	35' 16"	33	7
	33	アルパトロス	中村吉克	51' 26"	0.6843	35' 11"	32	⑥
	34	ベリタス II	杉村靖之	53' 12"	0.6993	37' 12"	38	10
	35	マイレディ II	寛奈保子	53' 29"	0.6843	35' 43"	34	8
	37	フリッパー	岩瀬洋明	53' 46"	0.6843	36' 47"	37	9
	1/8 t ク ラ ス	39	シロート II	鈴木佳子	57' 11"	0.6759	38' 39"	39
40		さぎなみ	熊田良三	57' 34"	0.6759	38' 54"	40	12
41		蒼風	仲原誠	1' 06' 05"	0.6723	44' 25"	41	13
42		エレガンス	菅沼慎一	1' 09' 26"	0.6843	47' 30"	43	14
44		シユバル	中村昭伸	1' 21' 46"	0.6901	56' 25"	44	15
DNF		パンダ II	杉浦実	D.N.F				
22		ラブフォーセール	村瀬好宣	47' 45"	0.6662	31' 48".6	15	①
26		トモエリカ VI		48' 14"	0.6662	32' 07"	17	②
27		シルバウィング	水田政名	49' 13"	0.6662	32' 47"	22	③
28		ロプスター	村瀬治美	50' 01"	0.6662	33' 19"	26	4
29		ロビン	天形博茂	50' 31"	0.6600	33' 20"	27	5
32	リトルレインボー	酒井俊行	51' 08"	0.6662	34' 03"	29	6	
36	マゼラン	高島尚	53' 45"	0.6662	35' 48"	35	7	
38	すみれ	服部健治	55' 21"	0.6600	36' 31"	36	8	
43	のんほい	印南道孝	1' 09' 36"	0.6537	45' 29"	42	9	



上：セーラーを展開した〈日本丸〉 中：スタート(風上側)
下：レディース賞に挑戦した〈マイレディII〉



係留された〈日本丸〉



ファーストホームの〈美濃〉



ファミリー賞の〈ノアV〉



1/8トンクラス優勝〈ラブフォーセール〉

第7回五ヶ所湾合同レース 経過報告

コミッティー担当 近藤文雄

東海支部合同レースとしては最大の目立レースが5月2日に行われました。数えて今回で7回目。ゴールデンウィークの天気予報では、最後の5日を除いてはすべて曇りか雨の予報が出され、今回のレースも、もう一つ盛り上がりにかけるのではないかと危ぶまれていましたが、予想を破り、なんとエントリー数44艇を数えるこれまでの最高のレースになりました。

KYCクラブハウスにて7時ごろよりエントリーの受付を開始するが、普段は十分なスペースのクラブハウスもいききれでムンムン。リッチなKYCのこと、エアコン一発で気持ち良い？が、テンテコ舞いしながらも8時半より艇長会議。

今回より2mの無線機を待つ艇によりロールコールをすることになり、6時の地点と大王の回航時間を報告することを決定。44艇中、8艇の無線機装備とは問題だと思われま。

暗雲たちこめる中、午前3時ジャストスタート？

S4~5m、各艇思い思いのコースを引き、フィニッシュの五ヶ所を目指す。我々コミッティーボートは40分程遅れ、真上りの機帆走でレース艇の赤燈、緑燈が交差する中を五ヶ所へとラムラインを行く。

予報が当たり、師崎をクリアするころから雨が降り出し、気の重くなるレースの始まりでした。

午前6時、それでも少しは明るくなったころ、予定通りロールコールを開始。各艇コール、艇の確認をする。KYC所属の〈MOSSY-TIE〉、〈きんとおうん〉のみが正直に？位置を報告してくれました。大王回航時は当方の就寝時間に当たりましたので、全体の確認は出来ずゴメンナサイです。布施田水道に入るところから雨足もひどく、視界も悪くなり、レース艇の視認は不可能になり、我々はサンドイッチとコーヒーの食事を取りながら、クルーをワッチに立て、雨をしのいでお休みです。

トップ艇、〈CARRERA〉が11時前にフィニッシュ。30分程遅れ、次々にフィニッシュラインを切る。最終艇も3時ごろにはフィニッシュし、DNFの2艇の確認をしながらVOCのクラブルームにて、藤井さん、邨瀬さん等と成績表の作成。毎度のことでしょうが、大変な仕事です。

5時にはパーティーを開始するつもりが、予定通りの6時に開始。〈朝鳥〉のオーナーである田村氏とその

グループの皆さんにより開始していただく。本当にありがとうございました。

2年続きの雨降りレースに、どしゃぶりパーティーでしたが、参加艇のオーナー、クルーの皆様本当にお疲れ様でした。第8回のレースにも、是非とも多数の参加をお願いしつつ報告とします。

なお、パーティーは例年のように行われましたが、値段を下げたことと、艇長会議での申し込み参加人数より現地での参加者が思いもかけず多かったため、それに対応できず、皆さんにご迷惑をおかけしました。来年度はもう少し企画を考えて、充実したパーティーにしたいと思います。

第7回五ヶ所湾合同レース成績表

艇名	T.C.F	着順	所要時間	修正時間	順位
NOAH V	0.7343	7	8 ^h 51 ^m 52 ^s	6 ^h 30 ^m 32 ^s	1
CARRERA	0.8212	1	7-59-50	6-34-02	2
MARK	0.7530	3	8-47-50	6-37-27	3
朝鳥	0.7815	2	8-32-33	6-40-33	4
MEER V	0.7590	5	8-48-15	6-40-56	5
長良	0.7269	12	9-12-32	6-41-38	6
ララ 10	0.7312	13	9-16-33	6-46-57	7
大王	0.7417	11	9-11-32	6-49-04	8
TOMOERIKA V	0.7479	9	9-09-15	6-50-47	9
富羊	0.7215	14	9-30-22	6-51-31	10
NARUMI V	0.7815	4	8-47-58	6-52-36	11
SUPER LUCY	0.7215	15	9-33-06	6-53-29	12
丸玉丸	0.7806	8	8-52-00	6-55-16	13
OCEANID EXPRESS	0.7280	16	9-37-27	7-00-23	14
HORIZON II	0.7260	17	9-40-18	7-01-17	15
パンダ	0.7000	20	10-09-42	7-06-47	16
SELENE III	0.8230	6	8-49-37	7-15-52	17
ウィングス	0.6800	30	10-51-40	7-23-08	18
以徳	0.7417	18	10-02-48	7-27-05	19
MICKY MOUSE	0.6901	25	10-50-22	7-28-49	20
GEMINI	0.6901	27	10-50-32	7-28-55	21
美濃	0.8187	10	9-09-33	7-29-22	22
SUPER YUKILADY	0.6901	32	10-52-00	7-29-56	23
くんでる III	0.6920	26	10-50-30	7-30-08	24
オデッセイ	0.6901	33	10-53-31	7-30-59	25
CHOVE CHUVA	0.6901	38	10-54-50	7-31-54	26
テニー	0.6920	39	10-55-55	7-33-53	27
JUST III	0.7540	19	10-07-42	7-38-12	28
パンゲア	0.7098	24	10-49-29	7-40-44	29
SKY LARK	0.7038	36	10-54-44	7-40-48	30
オーパス II	0.7193	23	10-48-46	7-46-39	31
LAPINE II	0.7204	29	10-50-35	7-48-40	32
PANDINA	0.7237	21	10-47-48	7-48-48	33
TRIDENT	0.6790	41	11-30-50	7-49-04	34
CAPTAIN HARLOCK	0.7215	31	10-51-55	7-50-21	35
飛鳥 II	0.7240	28	10-50-23	7-50-59	36
バックス	0.7269	37	10-47-48	7-55-58	37
CASTLE	0.6819	42	11-48-53	8-03-23	38
MOSSY-TIE	0.7450	35	10-53-40	8-06-58	39
うずしお II	0.7610	22	10-48-25	8-13-26	40
きんとおうん	0.7650	34	10-53-32	8-19-57	41
ソコノケ II	0.7650	40	10-58-25	8-23-41	42
サイキ II		D.N.F			
GARIBER		D.N.F			

東海支部例会報告

海事普及委員長 市川 勇

4月14日、第6回沖縄〜東京レースに我が東海地区よりエントリーした〈エピキュリアン〉、〈シンドパット〉、〈ナチ〉、〈パラフレニアン〉、〈ビンド〉、〈モランボン〉(アイウエオ順)の航行の安全と大いなる活躍をたえ、合同壮行会が第1回の例会として行われた。

このレースは、第1回が〈ナチ〉、4、5回が〈シンドパット〉と輝かしい優勝を飾った東海地区を誇る代表的レースでもあり、今回も続々とエントリーした各クルーのコメントにじっくり耳を傾け、また、名スキッパーの意味深長なコース設定秘話には、しばしグラスを小休憩されるという場面もあった。なごやかな雰囲気の中にも、厳しきクルー達の視線を見逃さずにいられなかった。そして、我らの素晴らしいヨットマンは、〈朝鳥〉のオーナー田村氏のパンザーイに見送られ、次々に母港を出航したのである。

5月12日、第2回例会には、

◎沖縄〜東京レース報告会

◎IOR計測について

◎電食について

のテーマが取り上げられた。

まず、報告すべきことは、沖縄〜東京レースの報告会というより、歓迎会といった方がふさわしく、〈エピキュリアン〉がファーストホームを成し、またこのNORC東海支部に輝かしき一ページを記すことが出来たことである。

榊原オーナーは、感激というより、我々は大変ラッキーであったとの御礼のことば。

そして、3度挑戦し、またおしくも涙をのんだ〈ビンド7〉の小林オーナーによるラダートラブル事故経過報告についても、事故処置の説明がされた。

なにはともあれ、この沖縄〜東京レースは、何度経験した者でも大変オモシロイ!!レースであり、とにかく、今回出場した各メンバーは、口をそろえて次回も是非挑戦したいと、一息つくばかりか、2年後の第7回レースを目指してチューニングを始めたようである。日焼けして帰って来たクルー達の大変さわやかな笑顔に心から拍手を送りたい。積みも積もったヒソヒソ話は、どうやら二次会に持ち込んだらしい……。

さて、今回のテーマとして、花川メジャーラーによるIOR計測についての説明で、参加会員より質問をあびながら、有意義な勉強会となった。

次に今回特に会員の要望により取り上げた電食について、会友艇〈プラズマ〉のオーナーでもある、名古屋大学プラズマ研究所助教授のヨットと雷についての講義が、時間の許す限り行われた。

近畿北陸支部 春季シリーズ・ポイントレース成績表

クラス	SAIL No.	艇名	艇種	T.C.F	持点	3 回 線					4 回 戦					得点	順位		
						順	所要時間	所要秒	修正順	点	順	所要時間	所要秒	修正順	点				
I	2191	EMANUELLE III	NAK 33	.7728	0														
	2300	YOU V	NAK 33	.7610	7 ↓	2	1 : 55 : 12	6912	2	2	1	1 : 40 : 00	6000	1	3 ↓	12 ↓	①		
	2355	KUMBHIRA	YAK 33	.7530	5 ↓	1	1 : 53 : 23	6803	1	3 ↓	2	1 : 41 : 04	6064	2	2	10 ↓	2		
	2377	SUEKO	NAK 33	.7620	6 ↓	3	1 : 55 : 23	6923	3	1	3	1 : 50 : 31	6631	3	1	8 ↓	3		
	2521	CHILD OF FORTUNE	NAK 33	.7620															
II	1786	POW RIVER II	NOU 30	.7183															
	1793	TINKLE TICK	GS	.7258	26	T.R				DNF	1	3	1 : 49 : 35	6575	3	5	32	3	
	1955	ひょっとこ 2	DOU 30	.7248	10													10	
	1963	HAYATE III	NAK 30	.7237															
	2022	めるへん	N 300	.7258	32	2	2 : 02 : 34	7354	2	6	2	1 : 48 : 42	6522	2	6	44 ↓	①		
	2064	風小僧	DOU 30	.7258	12 ↓	T.R				DNF	1	6	1 : 55 : 42	6942	6	2	15	7	
	2068	FROG V	N 300	.7215	16													16	6
	2077	FLEUR BLEUE-Z	TAK 31	.7290	19	1	1 : 56 : 04	6964	1	7 ↓	1	1 : 41 : 41	6101	1	7 ↓	33 ↓	2		
	2443	ANDALUCIA V	N 300	.7237															
	2449	PELL MELL	NAK 295	.7312	26													26 ↓	4
	2484	飛龍	NAK 295	.7322	11 ↓	T.R				DNF	1	5	1 : 52 : 02	6722	5	3	15	7	
	2899	RIVAGE		.7258	2	3	2 : 03 : 07	7387	3	5	4	1 : 50 : 06	6606	4	4	20	5		
2744	流星	NIC 30	.7333		T.R				DNF	1	7	2 : 00 : 16	7216	7	1	4	9		
III	1773	TRACER	ECU 26	.6831	3 ↓	T.R				DNF	1	3	1 : 58 : 25	7105	3	2	6 ↓	3	
	1795	矢寿	ECU 26	.6831															
	2014	MARI-SOLE IV	YAM 25	.6873															
	2239	PECKER II	F 727	.6878															
	2833	SUPER STAR	YAM26S	.															
	2847	ストロベリー	YAM26S	.6878	6 ↓	1	2 : 03 : 42	7422	1	4 ↓	1	1 : 52 : 40	6760	1	4 ↓	14 ↓	①		
	2670	SCOOT		.6662	2	T.R				DNF	1	4	2 : 05 : 17	7517	4	1	4	4	
2959	FIDELIA		.6878	4	T.R				DNF	1	2	1 : 57 : 34	7054	2	3	8	2		
													レース委員長 森岡忠美						

スタート時刻：2日1100 第5回大島～神子元島レース成績表 帆走委員長：藤田弘治

クラス順位	セーラー番号	艇名	大島回航	神子元回航	フィニッシュタイム	所要時間	T.C.F	修正時間	総合順位
I	2299	BIG APPLE	2日	3日	3日				DNS
	2872	摩利支天	1824	0027	0540' 28"	18. 40' 28"	0.8516	57251	2
II	2400	一寸法師							DNS
III	2035	CLARISSA					0.7806		DNF
	2751	BELLATRIX II	1856	0428	1041' 06"	23. 41' 06"	0.8031	68477	6
IV	2220	慎記郎 V	1800	0110	0703' 15"	20. 03' 15"	0.7640	55157	①
	2640	青海波	1815	0300	0853' 48"	21. 53' 48"	0.7570	59673	4
	2690	くろしお III	1820	0230	0857' 14"	21. 57' 14"	0.7530	59513	③
	3006	BORN FREE III	1930	0350	0941' 58"	22. 41' 58"	0.7580	61942	5
	1985	波勝	1905	0530	1240' 38"	25. 40' 38"	0.7458	68940	7 ↓
V	610	飛車角 II					0.7301		DNF ↑
	2600	KARASU	1955	0530	1140' 55"	24. 40' 55"	0.7312	64971	②
	2970	POINCIANA II	1920	0700	1437' 21"	27. 37' 21"	0.7270	72294	4
	3001	EMILLY	1838	0603	1213' 00"	25. 13' 00"	0.7343	66660	③
	3002	SYLPHIDES III	1620	0410	1046' 24"	23. 46' 24"	0.7354	62938	①
	2965	TSURUGI	1625				0.7270		DNF
VI	2260	RODEM V	2030	0905	1624' 27"	31. 24' 27"	0.6913	78163	5
	2167	TRACER	1958	0935	1651' 42"	31. 51' 42"	0.6947	79683	6

第3回 衣浦レガッタ



Aクラス2位同士の(丸玉丸)と(大王)

去る4月18日、愛知県衣浦湾において第3回衣浦レガッタが行われた。当レガッタは「衣浦湾にオリンピックレースを！」を合言葉に、衣浦ヨットクラブ、衣浦セーリングクラブ、碧南ヨットクラブが合同で開催している。音頭取りの碧南ヨットクラブ(山田克己会長)がコミッティーボートを出し、KYCの都築勝利氏(前NORC東海支部長)もコミッティー参加し、クラブ間の親睦レースにふさわしいものとなった。

レースは、マーク打ちに際し、保安庁船からの指導はあったものの、7~10mの順風のもと、30艇が参加して2レースを消化した。沖縄回航のビッグボートが欠け、昨年より出艇が少なかったが、逆に本命と目される艇もなく、レースを盛り上げた。第4回は10月17日開催予定であり、3クラブ以外の出艇も歓迎しますので希望艇は詳細をHYCまでお尋ね下さい。(碧南ヨットクラブ上野、樫山、邨瀬)

第3回衣浦レガッタ成績表

(Aクラス)		第1レース(スタート10:40)							第2レース(スタート13:15) 総合成績						
艇名	クラブ名	T.C.F	所要時間	修正時間	着順	修正	ポイント	所要時間	修正時間	着順	修正	ポイント	ポイント	順位	
マーク	KSC	0.759	1h02'02"	2824"	1	1	11 ⁺	1h08'09"	3103"	1	1	11 ⁺	22.5	1	
丸玉丸	KYC	0.784	1h06'38"	3105"	3	3	9	1h10'02"	3294"	2	2	10	19	2	
大王	KSC	0.742	1h06'08"	2944"	2	2	10	1h15'05"	3342"	3	3	9	19	2	
すばる	HYC	0.725	1h15'16"	3274"	6	5	7	1h24'44"	3685"	7	6	6	13	4	
ホライズン	HYC	0.726	1h18'08"	3403"	9	7	5	1h23'54"	3654"	6	5	7	12	5	
マーチン	HYC	0.725	1h14'36"	3245"	4	4	8	1h27'14"	3794"	8	8	4	12	5	
モシタイ	KYC	0.746	1h16'22"	3417"	7	8	4	1h20'40"	3610"	4	4	8	12	5	
きんとんうん	KYC	0.765	1h18'17"	3593"	10	10	2	1h23'23"	3827"	5	7	5	7	8	
風車	KSC	0.719	1h17'30"	3343"	8	6	6					DNS	1	7	
ソコノケ	KYC	0.765	1h15'01"	3443"	10	10	2					DNS	1	4	
美海	KYC	0.725					DNF					DNS	1	2	
(Bクラス)		第1レース(スタート10:25)							第2レース(スタート13:00)						
エム	HYC	0.689	1h08'37"	2836"	1	1	19 ⁺	1h19'39"	3292"	1	1	19 ⁺	38.5	1	
1/4	KYC	0.692	1h13'31"	3052"	2	2	18	1h21'15"	3373"	4	3	17	35	2	
飛鳥	KYC	0.724	1h15'10"	3265"	3	3	17	1h20'22"	3491"	3	5	15	32	3	
くんてる	KYC	0.692	1h18'46"	3270"	4	5	15	1h22'57"	3440"	5	4	16	31	4	
ノーボディ	HYC	0.690	1h19'08"	3276"	6	7	13	1h19'48"	3303"	2	2	18	31	4	
オデッセイ	KYC	0.689	1h19'00"	3266"	5	4	16	1h25'49"	3547"	6	6	14	28	6	
パイヤブランカ	HYC		1h21'05"	3405"	8	9	11	1h27'10"	3660"	7	7	13	24	7	
ナミ	HYC	0.666	1h27'04"	3479"	12	12	8	1h34'44"	3785"	9	9	11	19	8	
ハミングバード	KSC	0.690	1h22'32"	3416"	11	10	10					DNF	8	18	
MEG III	KSC	0.725	1h19'33"	3456"	7	11	9	1h37'08"	4219"	10	11	9	18	9	
パンオブシャーク	HYC	0.686	1h27'55"	3818"	13	15	5	1h28'57"	3661"	8	8	12	17	11	
キャメル	HSC	0.666	1h21'52"	3271"	10	6	14					DNS	1	15	
タートル	HYC	0.686	1h28'16"	3633"	14	14	6					DNF	8	14	
トライデント	KYC	0.679	1h21'39"	3326"	9	8	12					DNF	8	14	
ダビット	HYC	0.686					DNF	1h37'57"	4031"	11	10	10	11	15	
ブルーグラス	KSC	0.677	1h28'48"	3607"	15	13	7					DNF	1	8	
パピルス	KSC	0.685					DNF					DNF	1	5	
アルキメデス	HYC	0.686					DNF					DNF	1	2	
ディオオーネ	HYC	0.686					DNF					DNF	1	2	

ふたたび 「ヨットチャート」に

大橋 郁夫

OFFSHORE 3月号でもお知らせした如く、日本水路協会と第四管区水路部の御仕事として東海地方のヨットチャートの刊行準備が進んでいます。

このほど、四管図誌係よりかなり具体的な案が示されましたので、利用者である皆さんの御意見を求めたいと思います。

図格(図割り)は別表をごらん下さい。いずれもなかなか御苦労の跡がみえ、泣かせる……という感じです。小生私案も併せて申し上げますので、該当チャートを広げて見て下さい。

A: 1枚で東海地方のヨットハーバーの全部を入れようというもの。東辺は三谷ハーバーまで、西辺は津ハーバーをギリギリに入れ、北方は名古屋湾高潮堤、南は志摩神ノ島・見江島まで。まず立派なものです。20万ですから東海支部内レースの計画はまずこれ1枚で済んでしまいます。

B: 鳥羽港と的矢港、現存の73号海図から港内部分だけを切り取ったもの。これはパールレースで来航する艇へのサービス用。70号、1053号の次にこれが入ってもらえましょう。

鳥羽港は原案より12"ほど北へ寄せて手島と奈佐埼を含ませる。また、東西に余裕があるようなので西へ24"広げて飛島の全部(西端に燈標新設)を含めて頂けば更に便利になると思います。商船校棧橋も入ります。

的矢港も、外の方は別の図(1051等)が要るわけですから、西へ15"(または30")寄せてパールロードの橋の辺りまで分かるのは如何。

C: 布施田水道の西方、ビーブル及び「ねむの里」の艇が日帰りで遊びに出る範囲と考えられます。東南隅に和具港、西は赤石鼻がギリギリに入ります。大王崎の方へ出るためには別に海図1090、更に1051または前出の「A」が要りますが、

つながりを少しでも良くするため12"~20"ぐらい南へ寄せたらと考えます。五ヶ所の岸壁は少し切れても良いでしょう。

D: 渥美湾の原図は5万分の1ですからちよっと中途ハンパです。航海計画には狭すぎ、岸を見ながらにはラフすぎます。原案は三谷港と姫島を東端いっぱいに入れ、篠島が南西隅にきまですが、野島も立馬崎も切れ

てしまいます。私案のように西へズラして、西浦半島の東は切り捨て、1053図と継いで師崎・大井・豊浜まで入るようになってみても、南の方が切れてはうまくない気がします。

1052は元来半切判海図ですから、新しく小さい図を作って頂くメリットは取り扱い上もあまり大きくないので、蒲郡の方々には我慢して頂いて、Dはそのままにしておき、代わりに衣浦の連中の日帰り用として次の案は如何。

E: 1053 $\left\{ \begin{array}{l} 34^{\circ}37'0''\sim 34^{\circ}5'0''N \\ \frac{1}{50,000} \quad 136^{\circ}55'0''\sim 137^{\circ}6'0''E \end{array} \right.$

西は河和、東は宮崎、北は富貴、南は沖ノ瀬の近くまでです。あるいは、この中央部で

F $\left\{ \begin{array}{l} 34^{\circ}39'0''\sim 34^{\circ}44'30''N \\ \frac{1}{30,000} \quad 136^{\circ}55'30''\sim 137^{\circ}5'0''E \end{array} \right.$

という、全く新しい図を作って頂ければより良いかもしれません。いわゆる「東海の松島」を遊び回るのがドンピシャの図です。

ヨットチャートは、前号でも述べた如く、「巡航計画設定用」には一般に狭すぎるので、その用途には本海図がどっちみち要ります。「片手に持って岸と見くらべる」ためには、2万か、せいぜい3万5千分の1止まりで、その中でグルグル走り回る可能性の大きい場所を切り取るべきだと思います。

優先順(子算の都合だそうだが)、私の独断と偏見では、B、F、A、E、C、Dです、早くモンクを言わぬと出てしまいますよ。

記入事項も注文をつけて下さいとのこと。定置網、ノリ網(季節あり)、本船の常用航路、釣り舟の多いところ、潮流などのほか、気のついたことはドンデンお知らせ下さい。裏面には主要港の対景図、それに商業放送と関係機関からの気象・海況の放送プログラムをお願いしては如何でしょうか。

御協力を期待します。

東海市名和町二反表50の2 〒476

☎上野町(0560)63-1651 大橋 郁夫

「ヨットチャート」試案 図幅大キサ 47.5×33.5cm 原案：四管水路部図誌係

仮補	No. 原海図 縮尺	図格範囲	大橋私案
A	70 御前崎至伊勢湾 $\frac{1}{200,000}$	$34^{\circ}9'0''\sim 35^{\circ}1'0''N$ $136^{\circ}31'30''\sim 137^{\circ}15'30''E$	同左
B	73 鳥羽港付近 的矢港 $\frac{1}{20,000}$	$34^{\circ}27'54''\sim 34^{\circ}31'0''N$ $136^{\circ}49'30''\sim 136^{\circ}53'20''E$ $34^{\circ}21'10''\sim 34^{\circ}23'14''N$ $136^{\circ}51'45''\sim 136^{\circ}56'0''E$	$34^{\circ}28'6''\sim 34^{\circ}31'12''N$ $136^{\circ}49'6''\sim 136^{\circ}53'20''E$ $34^{\circ}21'10''\sim 34^{\circ}23'14''N$ $136^{\circ}51'0''\sim 136^{\circ}55'45''E$
C	78 安乗崎至赤石鼻 $\frac{1}{35,000}$	$34^{\circ}14'42''\sim 34^{\circ}21'0''N$ $136^{\circ}38'15''\sim 136^{\circ}49'0''E$	$34^{\circ}14'30''\sim 34^{\circ}20'48''N$ $136^{\circ}38'15''\sim 136^{\circ}49'0''E$
D	1502 渥美湾 $\frac{1}{60,000}$	$34^{\circ}40'0''\sim 34^{\circ}49'0''N$ $137^{\circ}0'0''\sim 137^{\circ}15'30''E$	$34^{\circ}39'0''\sim 34^{\circ}48'0''N$ $136^{\circ}55'30''\sim 137^{\circ}11'0''E$



NORC 協会ニュース

各専門委員の紹介

(社)日本外洋帆走協会の各専門委員で現在までに確定した方々を紹介致します。(57年5月12日現在)

1. 専門委員長

①総務委員長

清水栄太郎 〒112 東京都文京区音羽2-1-20
☎03-941-7368(自), 03-941-7171(会)

会報小委員長

大儀見薫 〒259-01 神奈川県中郡二宮町山西45
☎0463-72-3116(自)

国際小委員長

大儀見薫 〒259-01 神奈川県中郡二宮町山西45
☎0463-72-3116(自)

運営小委員長

清水栄太郎 〒112 東京都文京区音羽2-1-20
☎03-941-7368(自), 03-941-7171(会)

②法制委員長

嶋田武夫 〒248 鎌倉市腰越3-32-17
☎0467-32-4883(自), 03-284-5892(会)

③ルール委員長

石井正行 〒236 横浜市金沢区片吹113-3
☎045-783-2166(自), 03-270-1311(会)

④財務委員長

名当英臣 〒251 藤沢市藤沢2481
☎0466-81-8290(自), 03-409-7551(会)

⑤通信委員長

篠原 要 〒233 横浜市港南区港南台6-1-43-25
☎045-831-2370(自), 03-382-4422(会)

⑥海事思想普及委員長

今岡又彦 〒250 藤沢市鵠沼海岸5-8-23鵠沼パーク
ハウス101
☎03-404-5311(会)

⑦帆走委員長

武市 俊 〒336 浦和市原山2-33-8-7-404
☎0488-82-5598(自), 0482-25-1753(会)

⑧計測委員長

林賢之輔 〒249 逗子市池子2-20-72
☎0468-71-5862(自), 0468-71-7862(会)

⑨泊地対策委員長

平野喜美夫 〒248 鎌倉市笛田1152-21
☎0467-31-1956(自),
03-404-3311 内2344(会)

⑩安全委員長

児玉万平 〒153 東京都目黒区中目黒1-8-12-3-2
☎03-711-1826(自), 03-502-0526(会)

⑪技術委員長

渡辺修治 〒240-01 神奈川県三浦郡葉山町堀内588
☎0468-75-0709(自),
03-543-5523 内3898(会)

2. 総務委員会

委員長

清水栄太郎 〒112 東京都文京区音羽2-1-20
☎03-941-7368(自), 03-941-7171(会)

委員

大儀見薫 〒259-01 神奈川県中郡二宮町山西45
☎0463-72-3116(自)

嶋田武夫 〒248 鎌倉市腰越3-32-17
☎0467-32-4883(自), 03-284-5892(会)

小林和太郎 〒247 横浜市戸塚区小管ヶ谷町2804-480
☎045-892-3719(自), 03-504-1911(会)

塩川孝二 〒416 富士市松本249-1
☎0545-61-4457(自),
0545-61-4111 内380(会)

小林義彦 〒475 愛知県半田市亀崎町10-1
☎0569-28-0811(自), 0569-29-0700

三井祥功 〒601 京都市南区東九条北鳥丸町25
☎075-661-0325(自), 075-592-3225(会)

秋田博正 〒659 兵庫県芦屋市山手町31-26
☎0797-22-2324(自), 0798-22-2701(会)

岩田行史 〒733 広島市己斐中2-3-10
☎0822-71-1642(自), 08295-6-1131(会)

福元征四郎 〒815 福岡市南区多賀1-2-18
☎092-512-3617(自), 092-522-0706(会)

城間祥行 〒900 那覇市泉崎1-11-2
☎0988-63-8744(自), 0988-67-2117(会)

3. 編集委員会

委員長

大儀見薫 〒259-01 神奈川県中郡二宮町山西45
☎0463-72-3116(自)

委員

高坂武雄 〒223 横浜市港北区新吉田町3511
☎045-591-6522(自), 03-764-2601~8(会)

藪 信雄 〒104 東京都中央区八丁堀2-30-17
☎03-393-2738(自), 03-552-3881~5(会)

服部一郎 〒231 横浜市中区仲尾台81
山手マンション705
☎045-662-6029(自), 03-212-0321(会)

依田 渡 〒150 東京都渋谷区神宮前2-13-7
日興パレス607
☎497-0453(会)

若井あゆ子

山田幸雄 〒168 東京都杉並区久我山5-16-2
☎03-332-7332(自), 03-403-0251

支部委員

秋山泰広 〒417 富士市船津468
☎0545-34-1148(自), 0559-24-3607(会)
富川則之 〒457 名古屋市南区豊田町六の割
第二南陽ハイツ1004
☎052-692-6352(自), 0568-73-7101(会)
三井祥功 〒601 京都市南区東九条北鳥丸町25
☎075-661-0325(自), 075-592-3225(会)
浮田尚子 〒581 八尾市東太子2-7-8
☎0729-22-6127(自), 06-401-1221 内669(会)
有田一郎 〒730 広島市小町6-24
☎0822-46-1200(自, 会)
堀田総八郎 〒814 福岡市西区交丘3-10-38
☎092-863-9389(自), 092-721-1234(会)

4. 国際委員会**委員長**

大儀見薫 〒259-01 神奈川県中郡二宮町山西45
☎0463-72-3116(自)

委員

清水栄太郎 〒112 東京都文京区音羽2-1-20
☎03-941-7368(自), 03-941-7171(会)
武市 俊 〒336 浦和市原山2-33-8-7-404
☎0488-82-5598(自), 0482-25-1753(会)
小林義彦 〒475 愛知県半田市亀崎町10-1
☎0569-28-0811(自), 0569-29-0700(会)
山田東吾 〒674 兵庫県明石市大久保町高丘6-2-19
☎078-935-7675(自),
078-967-1202~3(会)

5. 法制委員会**委員長**

嶋田武夫 〒248 鎌倉市腰越3-32-17
☎0467-32-4883(自), 03-284-5892(会)

委員

松永武士 〒160 東京都新宿区西早稲田3-5-10
甘泉園ハイツ302
☎03-202-6238(自), 03-284-5527(会)
一木正治 〒153 東京都目黒区東山3-7-6
東山マンション501
☎03-711-2022(自), 03-543-6051(会)
大河原明德 〒214 川崎市多摩区生田1776
☎044-911-3554(自), 03-284-5205(会)
中村 真 〒240 横浜市保土ヶ谷区上星川町291
☎045-381-3478(自), 03-403-7101(会)

6. 通信委員会**委員長**

篠原 要 〒233 横浜市港南区港南台6-1-43-501

委員

鈴木保夫 〒275 習志野市秋津2-4-3-706
☎0474-51-7887(自), 03-442-2961(会)
高城秀康 〒232 横浜市南区弘明寺301
☎045-731-5369(自), 03-503-3839(会)
坂西正明 〒152 東京都目黒区碑文谷1-25-6
☎03-712-5209(自)
浦部紘一 〒249 逗子市逗子5-1-25
☎0468-73-7314(自),
03-465-1111 内5726(会)
渡辺龍彦 〒226 横浜市緑区竹山4-4-10
☎045-934-3238(自)
045-932-1231 内480(会)
清水栄太郎 〒112 東京都文京区音羽2-1-20
☎03-947-2340(自), 03-941-7171(会)
横沢真則 〒177 東京都練馬区谷原5-14-17
☎03-997-6036(自), 03-997-6036(会)
伊藤修二 〒145 東京都大田区東雪ヶ谷2-2-1-603
☎03-728-0362(自), 03-759-7111(会)
鈴木康之 〒239 横須賀市ハイランド1-40-10
☎0468-48-5011(自), 03-582-0782(会)
大谷正彦 〒211 川崎市中原区上小田中943-3
ローズハイツ413
☎044-733-3763(自),
044-777-1111 内6840(会)
前田泰明 〒111 東京都台東区清川1-13-13
☎03-873-6142(自), 03-873-6142(会)
赤間 正 〒108 東京都港区高輪2-8-7
☎03-447-3578(自), 03-404-3636(会)
前川治美 〒215 川崎市多摩区下麻生837-7
☎044-987-2155(自),
03-052-0161 内322(会)

NORC 支部通信委員

塩川孝二 〒416 富士市松本249-1
☎0545-61-4457(自),
0545-61-4111 内380(会)
林 讓治 〒509-51 土岐市泉町定林寺665
☎05725-4-6382(自),
052-721-2111 内659(会)
秋山福夫 〒607 京都市山科区清水焼団地
☎075-592-0415(自), 075-592-0415(会)
大石 守 〒592 高知市羽衣4-2-1-201
☎0722-63-8036(自), 06-856-6658(会)
岩田行史 〒733 鹿児島市己斐中町2-3-10
☎0822-71-1642(自), 08295-6-1131(会)
大原 敦 〒815 福岡市南区大橋4-21-3
☎092-541-5006(自), 092-541-5006(会)
平良 健 〒903 那覇市石山嶺町4-202
☎0988-86-2932(自), 0988-66-2300(会)

7. 海事思想普及委員会

委員長

今岡又彦 〒251 藤沢市鵠沼海岸5-8-23-101
☎0466-34-1727(自), 03-404-5311(会)

委員

内藤清朗 〒249 逗子市逗子7-3-49
☎0468-73-4972(自), 03-669-9581(会)

長江博人 〒271 松戸市根本72高橋マンション403
☎0473-61-2531(自), 03-452-5551(会)

高坂武雄 〒223 横浜市港北区新吉田町3511
☎045-591-6522(自), 03-764-2601(会)

兵藤 茂 〒247 鎌倉市岡本120
☎0467-46-3819(自), 03-772-8725(会)

芳賀治一 〒236 横浜市金沢区釜利谷町3827
☎045-781-2664(自), 03-735-3401(会)

関山光二 〒251 藤沢市辻堂西海岸1-1-20-502
☎0466-34-6409(自), 03-544-7374(会)

吉田晴彦 〒248 鎌倉市七里ヶ浜東4-21-1
☎0467-31-0717(自), 03-543-5523(会)

山本孝文 〒154 東京都世田谷区上馬2-26-6-504
☎03-418-2906(自), 03-662-3666(会)

8. 計測委員会

委員長

林賢之輔 〒249 逗子市池子2-20-72
☎0468-71-5862(自, 会)

副委員長

金指昭郎 〒251 藤沢市片瀬海岸1-8-41
☎0466-22-4257(自), 03-543-5523(会)

委員

西田兼義 〒112 東京都文京区大塚2-8-8
☎03-941-2405(自), 03-941-2405(会)

花川幸一郎 〒509-51 土岐市泉ヶ丘町5-60
☎052-621-4033(自), 052-582-5511(会)

伊藤静美 〒251 藤沢市鵠沼松ヶ岡1-3-2
☎0466-22-8607(自)

飯塚功二 〒656 洲本市字原1565
☎07992-2-9311(自), 07992-4-0401(会)

松本明雄 〒731-01 広島市安佐南区祇園町西原木
の元285-2コーポ木下302号
☎0822-38-8436(自)

深田敏雄 〒520-23滋賀県野洲郡野洲町市三宅1849
☎07758-7-1864(自), 075-681-3171(会)

福島 甫 〒983 仙台市旭ヶ丘3-10-13
☎0222-34-2828(自), 0222-22-1800(会)

田中竜男 〒592 堺市弁天石津町西5-327
浜寺ポート内
☎0722-62-8651(会)

倉本泰治 〒550 大阪市西区鞠本町10-10

中村 真 〒240 横浜市保土ヶ谷区上星川町291
☎045-381-3478(自), 03-403-7101(会)

大橋且典 〒136 東京都江東区南砂2-3-7-1430
☎03-552-1750(自)

平野雅一 〒221 横浜市神奈川区浦島町5-16
神奈川芙蓉ハイツ611
☎045-453-5914(自)

高橋太郎 03-543-5523 内8810(会)

桜井常雄 〒247 横浜市戸塚区小管ヶ谷2804-437
☎045-892-3829(自), 045-651-0607(会)

都外川修一 〒247 鎌倉市関谷653-1
関谷スカイハイツ704
☎0467-46-4408(自),
0468-61-5111 内417(会)

前田 博 〒424 清水市三保3117-3
☎0543-35-7384(自),

沢地 繁 〒154 東京都世田谷区上馬2-26-6-1201
チサンマンション三軒茶屋12F
☎03-421-1251(自, 会)

9. 泊地対策委員会

委員長

平野喜美夫 〒248 鎌倉市笛田1152-21
☎0467-31-1956(自)
03-404-3311 内2344(会)

委員

羽柴宏昭 〒238 横須賀市坂本町2-24
☎0468-24-0377(自)
0468-22-4000 内2438(会)

平林 滋 〒150 東京都渋谷区神宮前1-14-4
☎03-478-5703(自), 03-404-5411(会)

亀井澄夫 〒248 鎌倉市大町2-4-7
☎0467-24-8204(自), 03-400-2044(会)

山口彰夫 〒150 東京都渋谷区神宮前6-34-15
☎03-400-1206(自), 03-271-4055(会)

矢吹秀邦 〒150 東京都渋谷区西麻布1-2-9
☎03-408-1016(自), 03-502-3021(会)

菅原留意 〒249 逗子市久木3-10-22
☎0468-71-3962(自), 0468-61-5111(会)

大河原孫一 〒114 東京都北区王子2-15
☎03-911-2334(自)

鶴飼 恒 〒154 東京都世田谷区三軒茶屋2-14-10
ロイヤルM.S.三軒茶屋602
☎03-410-0553(自)

横沢真則 〒177 東京都練馬区谷原5-14-17
☎03-997-6036(自)

草間信二 〒192 八王子市子安町2-31-21
☎0426-42-5389(自), 0426-42-7191(会)

種村道彦 〒130 東京都墨田区千代2-5-4

名当英臣 〒251 藤沢市藤沢2481
☎0466-81-8290(自), 03-409-7551(会)

宮森和美 〒110 東京都台東区上野7-9-14

- ☎03-845-2400(自), 03-843-2761(会)
 〒107 港区南青山 5-1-10-1205
 平田克己
- ☎03-407-6100(自), 045-662-1321(会)
 〒187 小平市小川町 1-823
 川久保史朗
- ☎0425-65-0266(自), 0423-41-3290(会)
 〒194 町田市つくし野 1-36-28
 石川平八朗
- ☎0427-96-9362(自), 03-403-9203(会)
 〒236 横浜市金沢区町屋町21-7
 藤森紀明
- ☎045-781-8228(自)
 〒335 蕨市南町 2-31-12
 竹下義紀
- ☎0484-45-5045(自), 0482-53-0571(会)
 〒273 船橋市宮本 4-18-8-503
 鈴木博士
- ☎0474-31-7085(自), 03-625-4484(会)
 〒272-01 千葉県葛飾郡浦安町美浜
 4-4-1004
 石井 孝
 ☎0473-53-2606(会)

10. 技術委員会

委員長

- 渡辺修治 〒240-01 神奈川県三浦郡葉山町堀内588
 ☎0468-75-0709(自),
 03-543-5523 内3898(会)

委員

- 林賢之輔 〒249 逗子市池子 2-20-72
 ☎0468-71-5862(自), 0468-71-5862(会)
- 武市 俊 〒336 浦和市原山 2-33-8-7-404
 ☎0488-82-5598(自), 0482-25-1753(会)
- 嶋田武夫 〒248 鎌倉市腰越 3-32-17
 ☎0467-32-4883(自), 03-284-5892(会)
- 松木 哲 〒659 芦屋市潮見町 3-4-4
 ☎0797-32-3834(自), 078-453-2332(会)
- 野本謙作 〒658 神戸市東灘区本山南町 3-10-30-512
 ☎078-451-5654(自), 06-877-5111(会)
- 横山一郎 〒432 浜松市富塚町 3876-18
 ☎0534-74-9373(自), 05359-4-1211(会)
- 高井 理 〒215 川崎市多摩区袖山 95-125
 ☎044-966-7423(自), 044-966-7423(会)
- 中村 真 〒240 横浜市保土ヶ谷区上星川町 291
 ☎045-381-3478(自), 03-403-7101(会)
- 顧問デザイナー・グループ(人選未定)発言権を与える
 ※ (自): 自宅, (会): 会社

「海の旬間」の実施

事務局

運輸省においては、今年も下記の実施要領に基づき「海の旬間」を実施するので協力方の依頼がありました。海を活動の場とする我々は、積極的に参加されるようお願い致します。

昭和57年「海の旬間」実施要領

第1 目的

この「海の旬間」(以下「旬間」という。)は、四面を海に囲まれた我が国にとって国民生活と密接に結びついている海の重要性、とりわけ我が国の将来の発展に必要な不可欠である海の開発及び利用の重要性について、広く国民の関心を喚起するとともに、海洋環境の保全、海上における安全の確保等に関する健全な海事思想の普及を図り、もって海洋国家日本の発展に資することを目的とする。

第2 基本的な方針

第一の目的を達成するため、「海にひらこうわれらの未来」をテーマに、運輸省が中心となり、海運、造船、港湾、水産の関係者等海を生活の場としている人々をはじめとする国民の「旬間」行事への全国的な参加を図ることにより、一般世論の盛り上がりを喚起するものとする。

第3 期間

「旬間」は、7月20日(「海の記念日」)から7月31日までの12日間とする。

なお、この「旬間」を効果的なものにするための諸準備及び周知活動を行うため、7月10日から7月19日までの10日間を準備期間とする。

第4 主催

「旬間」の主催団体は、運輸省、海上保安庁、気象庁、日本小型船舶検査機構、海上災害防止センター、(財)日本船舶振興会、(財)日本海事財団、(財)日本海事広報協会、(社)日本海難防止協会、(財)日本海事科学振興財団、(社)日本港湾協会、(財)日本水路協会及び(社)日本海員救済会とする。

5. 組織

「旬間」を強力に推進するため、中央においては主催団体で構成する「海の旬間推進委員会」を設置し、総合的な実施計画を作成して、その実施に当たり、地方においては各海運局(海運監理部)及び沖縄総合事務局が中心となり、関係行政機関及び団体等で構成する「海の旬間実行委員会」を設置し、各地域ごとの実施計画を作成して、その実施に当たるものとする。

第6 実施事項

「旬間」の期間中においては、下記の実施事項を極力広範囲に実施するとともに、これら以外の事項についても、地域の特異性を考慮して、「旬間」の趣旨にそった有効な事項をおりこみ実施する。

なお、周知活動については、準備期間も含め、広範囲に実施するものとする。

記

1. マスコミ、掲示物等による周知活動

- (1) 白書等の発表
「海上保安の現況」及び「日本海運の現況」を作成し、発表する。
- (2) 広報資料の作成・配布
「旬間」の趣旨を周知するための広報資料を作成し、広く一般に配布する。
- (3) テレビ、ラジオ等による広報
テレビ、ラジオ、週刊誌等を通じ、「旬間」の目的を達成するための広報活動を実施する。
- (4) ポスター、字幕等の作成・掲示
「旬間」のテーマ及び「海の記念日」をモチーフにしたポスター、字幕等を作成し、広範に掲示を行う。
- (5) 配布物による一般への周知
各種配布物を作成し「旬間」行事を通じて広く一般に配布する。

2. 実施行事

- (1) 記念式典
「海の記念日」記念式典を開催し、海事功労の顕著な者に対して表彰を行う。
- (2) 海上・街頭におけるデモンストレーション等
海上パレード、街頭パレード、フェスティバル等のデモンストレーションを実施するほか、図面、写真コンクール等を開催する。
- (3) 船舶の一般公開等

船舶の一般公開、体験乗船及び体験航海を実施する。

- (4) 講演会、映画会等
海洋に関する講演会、映画会、海事ゼミナール等を開催する。
- (5) 訪船指導・無料健康相談等
海洋汚染防止、海難防止のための訪船指導、船舶等を対象とした無料健康相談等を行うほか、港内、海浜等の清掃を行う。
- (6) 海洋スポーツの振興
ヨット、モーターボートへの体験乗船及び各種競技会を実施し、海洋スポーツの振興を図る。
- (7) 汽笛の一斉吹鳴
7月20日（「海の記念日」）正午を期して汽笛の一斉吹鳴を行う。

計測委員会からのお知らせ

1. 計測員の旅行時間手当について

現在、計測員が出張して計測を行う場合、計測料の外に、旅費、宿泊費がオーナー負担となっていますが、更に、旅行時間に対する費用を負担していただくことになりました。（一部の地域では既に実施されています）

基準は次の通りです。

旅行時間1時間当たり1,000円、または、旅行距離10km当たり300円のうち、どちらかを状況によって選

1982年 クリッパーカップ・ヨットシリーズ通信

クリッパーカップ・ヨットシリーズのゼネラルレース・チェアマン、ケン・モリソン氏から、NORC 副会長の大儀見薫氏宛に届いた書状を紹介いたします。

第2回クリッパーカップ・ヨットシリーズ艇は現在までのところ、日本からは9艇エントリーを受けとっています。〈雲柱〉、〈サンバードV〉、〈スーパーウィッチ〉、〈トーゴVII〉、〈つばくろ〉、〈摩利支天〉、〈プッシーキャッツIII〉（イワイヨシヒロ氏は、また地方の船をチャーターすると思います）、〈カズ〉、そして〈ビッグアップル〉です。これは今までにないフリートと言えるでしょう。どの艇がチームに選ばれたか、とても知りたいのですが……。

また、エントリーの締め切りは6月15日ですので、セレクションが済み次第、できるだけ早くエントリーを送っていただいた方がよいと思います。

す。なお、プログラムにのせるのには、6月1日までに写真とクルー・リストを送っていただかなければなりません。

シリーズが近づくにつれて準備が続いていますが、今年のレースは面白くなりそうです。ホノルルで皆さんと会えることを楽しみにしています。追伸

NORC メンバーに、SSB ラジオに必要な周波数は、2182.0、4125.0、6221.6、それに8291.1だとお知らせ下さい。レースの主要な周波数は、4125.0になる予定です。その他は遭難信号用の周波数、またはアラウンド・ステート・レース中のロールコール用の周波数にする予定です。

注：NORC より

上記の9隻のほかに次の4隻が参加を希望しております。〈コテルテル〉、〈ダンデライオン〉、〈キャプテン・アルバトロス〉、〈とびうめ〉

択する。

例：計測員の居所からAマリーナまで、車で行くと40kmあり、電車等を利用すると1時間30分かかるとする。

車利用の場合…… $\frac{40(\text{km})}{10} \times 300 = 1,200$ 円
(プラス、ガソリン代等)

電車等利用の場合……(1,5時間)×1000=1,500円
(プラス、電車賃等)

2. 既報の通り、IOR 計測証書に計測状態備品目録が添付されます。

最近、意識的な、あるいは無意識的なトリム変更が目立つようになりました。また、同一艇種でありながら、排水量、トリムなどがひどく異なる艇もあり、より一層の公平なレースを期するため、JORにも適用することになりました。オーナーの皆様のご協力をお願いします。

計測状態と明らかに異なる排水量、トリムの状態であることが判明した場合、計測証書は無効となりますので、再計測を受けて下さい。

作業内容は

- I) オーナーか、あるいはスキッパー立ち会いの下に、計測状態のチェック・リスト及び備品目録の記入。
- II) フリーボードのチェック
- III) エンジン機種の確認 (主にプロダクション艇)

IV) RMのチェック (時に異常な値をもつ艇)

V) その他

なお、インサイドバラストを搭載している艇は、必ず恒久的に固定してください。(レース中にインサドバラストを固定していない艇は抗議の対象になり得ます)

青い羽根募金

今年も7月20日、海の記念日を中心に青い羽根募金が行われます。

OFFSHORE 第87号 昭和57年 6月15日発行
毎月1回15日発行
昭和52年 7月21日 第三種郵便物認可
1部定価200円 (郵送料45円)

発行 社団法人 日本外洋帆走協会
東京都港区虎ノ門1-15-16(船舶振興ビル4階)
電話・東京03(504)1911-3 〒105
郵便振替番号 2-21787

印刷 株式会社 廣濟堂

開いてよかった!

先ごろ油壺湾の奥の三崎マリンの向かいに公衆トイレが誕生した。

ここは24時間使用可能。建物もモダンで、評判は上々。同トイレの最大の特徴はセール洗いのあることだ。ここが出来てから、油壺湾の魚もごきげんがよいそうだ。

正面図

